

# 徳島 の剣道

第 6 号

徳島県剣道連盟

全剣連第五六号

昭和五十年五月十四日（通達）

## 一、剣道の理念

剣道は

剣の理法の修練による

人間形成の道である

## 一、剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び

心身を錬磨して 旺盛なる気力を養い

剣道の特性を通じて 礼節をとうとび

信義を重んじ 誠を尽して 常に自己の修養に努め

以って 国家社会を愛して

広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである

以上

## 巻 頭 言

徳島県剣道連盟会長 堀 江 幸 夫

直心影流の神谷伝心斎は「これまでの勝負はみな外道乱心の業であった。仁・義・礼・智の四徳に基づかない兵法は、畢竟詐術にすぎない。真の勝ち己を捨てて真心をもって進退し、非心を断たねば得られるものではない」と悟り、直心を以て流名とし「非切一すなわち非を切断することを流儀の鉄則とした。面・籠手こてを頼りにするな。一身を防ぐものは直心のみとし喝破している。

さて私共剣道人が、いま、日夜修練精進しやうれんしやうじんしている剣道とは一体何なのか、何を目的としているのか、一度竹刀を振る手をとめて考えてみるのも大切なことである。いや今こそ深く思いをここに致すときであろうと思う。直心修業の門あり、入るや否や、これは自ら選ぶことであり決定するのは吾々自身である筈はず。

「室町期の公卿日誌に「世はみな酔えり、独り醒むるもかえって奇怪」とある。全員が赤鼻だったり酔っぱらいだったとすると、その方が異形異体でも、まともな人間の方が居心地が悪くなり、心細さに負けて数の多い側に従ってしまう。敵しい剣行をとおして仁・義・礼・智の四徳を修めたいと願いながら醒むるもかえって奇怪と、かくて悪貨が良貨を駆逐し、多数決が少数派の正論を呑みこむ、それこそ奇怪な現象が起こりそれが大手を振ってまかり通っているが誰も怪しむものがない。

今年こそ襲いかかるこの安逸の風潮の大浪に抗って剣道人としての信念をつらぬき通す反骨精神を持たねばならぬと考えるのは私一人ではないと思う。瞬時に消滅する宿命を持つ剣技、それが故に最高の心技の表現に心身を砕きこの無を表現することに剣道人は自らの人生を賭けてきた筈はずだ、改めて初心にかえり、伝心斎の自らの非を切り、仁義礼智の四徳涵養の年にしたいと切に念ずる次第である。

# 目次

巻頭言	会長 堀江幸夫	
48 国体への強化		1
徳島の剣道（各バートからの報告）		7
全国大会に参加して		12
わが郷土の剣豪紹介（各支部より）		15
人物紹介（各支部より）		19
剣道随想		23
平成元年度戦いの跡		29
平成元年度昇段者名簿		39
平成二年度剣道・居合道昇段審査学科試験問題・解答例		42
平成二年度行事予定表		69
平成二年度役員一覧表		71
平成二年度段級審査実施計画表		74
徳島県剣道連盟事務分掌表		77
編集後記		79

△表紙▽

題字 堀江幸夫徳島県剣道連盟会長

絵 伊原秀文徳島県剣道連盟審議員

# 48 国体への強化

## 国体（少年の部）強化の流れ

昭和63年

◎	1月4日	(月)	7日	(木)	九州遠征
◎	3月27日	(日)	29日	(火)	強化合宿
◎	5月15日	(日)			国体錬成大会（1年個人戦）
◎	5月21日	(土)	22日	(日)	強化合宿
◎	6月11日	(土)	12日	(日)	強化合宿
◎	6月26日	(日)			県選手権大会
◎	7月24日	(日)			県総体
◎	7月28日	(木)	30日	(土)	強化合宿
◎	8月16日	(火)	18日	(木)	強化合宿
◎	8月21日	(日)			国体錬成大会（1年団体戦）
◎	9月24日	(土)	25日	(日)	強化合宿
◎	10月8日	(土)	10日	(月)	兵庫遠征
◎	11月3日	(木)			強化錬成大会
◎	11月13日	(日)			強化錬成大会
◎	12月11日	(日)			国体錬成大会（1年個人戦）
◎	12月25日	(日)	26日	(月)	強化合宿

昭和64年・平成元年

◎	1月4日	(水)	6日	(金)	広島遠征
◎	1月5日	(木)	7日	(土)	強化合宿
◎	1月22日	(日)			県新人大会
◎	3月25日	(土)	29日	(水)	九州遠征
◎	3月25日	(土)	27日	(月)	強化合宿

◎	3月27日	(月)	29日	(水)	強化合宿
◎	5月3日	(水)	5日	(金)	広島遠征
◎	5月7日	(日)			国体錬成大会（3人団体戦）
◎	5月27日	(土)	28日	(日)	強化合宿
◎	6月4日	(日)			強化錬成大会
◎	6月18日	(日)			県選手権大会
◎	7月23日	(日)			県総体
◎	8月1日	(火)	3日	(木)	強化合宿
◎	8月28日	(月)	30日	(水)	兵庫遠征
◎	10月10日	(火)			強化錬成大会
◎	11月3日	(金)			国体錬成大会（団体）
◎	12月3日	(日)			強化合宿
◎	1月5日	(金)	7日	(日)	愛媛遠征
◎	1月13日	(土)	15日	(月)	県新人大会
◎	1月21日	(日)	11日	(日)	兵庫遠征
◎	2月10日	(土)			九州遠征
◎	3月25日	(日)	28日	(水)	

〈国体に向けての取り組み〉

県外遠征	9回
強化合宿	13回
延べ	64日

## 九州遠征報告

一日時	平成元年3月26日(日) ~ 29日(水)
二場所	佐賀県・熊本県
三目的	(1) 48国体を控え、全国大会ベスト8どまりの徳島県中学校 剣道のレベルアップ。

(2) 全国一流の指導者から、剣道に対する熱意を徳島県指導

者(平字ハ)トモ。

四 参加校

富士館中(東京)、清風中(大阪)、上郡中(兵庫)  
東城中(広島)、紫雲中(香川)、大方中(高知)  
北支安中(佐賀)、高千穂中(宮崎)、八代第三中  
他全国レベルの学校男女延べ73チーム(佐賀50、熊本23)

五 参加者

\* 引率者

◎ 総務 石井 博 (附属)  
◎ 監督 中山 繁輝 (文理)  
◎ コーチ 村井 正志 (阿南)  
◎ 生活指導 斎 浩市 (南部)  
◎ マネージャー 住友 健司 (木頭)

\* 参加生徒

男子

2 年  
西条 守(阿波) 小林 隆志(木頭)  
矢代 潤(藍住) 磯部 健治(那賀川)  
山本 泰史(八万) 鈴木 真一(阿波)

女子

1 年  
天羽 将文(阿南一) 松村 芳紀(入田)  
中山 真治(木頭) 石田 裕貴(八万)  
川添 義仁(小松島) 原田 陽博(文理)

2 年  
小藪 千鶴(木頭) 田島希実子(阿波)  
秋山 千秋(阿波) 田村 繁子(鴨島一)  
宗本 千絵(山川) 荒井 弥和(附属)

1 年  
森 ひろみ(小松島) 大城 夏子(木頭)  
前浦志津代(木頭) 酒卷 裕美(阿波)

六 試合結果の概要

◎ 団体

笠松 寛子(入田) 佐野 由佳(北井上)

男子 徳島選抜 2年 12勝6敗 (0・667)  
1年 9勝5敗1分(0・643)  
女子 徳島選抜 2年 7勝7敗1分(0・500)  
1年 8勝6敗1分(0・571)

◎ 個人(強豪チームの選手を相手に勝率5割以上の選手)

男子 2 年  
西条(阿波) 10勝3敗2分(0・769)  
小林(木頭) 9勝3敗3分(0・750)  
鈴木(阿波) 10勝5敗 (0・667)  
山本(八万) 10勝5敗 (0・667)  
磯部(那賀川) 8勝4敗4分(0・667)  
中山(木頭) 5勝1敗6分(0・833)  
天羽(阿南一) 7勝2敗4分(0・778)  
松村(入田) 4勝3敗6分(0・571)  
石田(八万) 6勝5敗2分(0・545)  
原田(文理) 4勝4敗4分(0・500)  
田島(阿波) 5勝0敗8分(1・000)  
小藪(木頭) 7勝3敗3分(0・700)  
田村(鴨島一) 6勝3敗3分(0・667)  
秋山(阿波) 5勝3敗5分(0・625)  
森(小松島) 8勝2敗3分(0・800)  
酒卷(阿波) 8勝4敗2分(0・667)  
佐野(北井上) 4勝2敗7分(0・667)

女子 2 年  
小藪(木頭) 7勝3敗3分(0・700)  
田村(鴨島一) 6勝3敗3分(0・667)  
秋山(阿波) 5勝3敗5分(0・625)  
森(小松島) 8勝2敗3分(0・800)  
酒卷(阿波) 8勝4敗2分(0・667)  
佐野(北井上) 4勝2敗7分(0・667)

七

\* 対戦相手が同じではなく、上記はあくまで参考資料。  
\* 参加した生徒24名の感想をまとめてみると

◎ おもいきった技を出している。  
◎ スピードがはやくて、次々と気持ちをつなげて技を出している。

- ◎ 打つ機会がすばらしい。(特に出ばな)
- ◎ 気迫、気持ちがすごく充実している。
- ◎ 礼儀作法が素晴らしい。
- ◎ 自分のペースで試合をしている。(試合運びがうまい)
- ◎ 打った後の体勢が良く、すぐに次の打突ができる。
- ◎ 一本一本決めがうまい。

## 兵庫遠征報告

一日時 平成元年8月28日(月)～30日(水)

二場所 兵庫県赤穂郡上郡町

三目的 (1) 48国体を控え、全国大会ベスト8どまりの徳島県中学校

剣道のレベルアップ。

(2) 全国一流の指導者から、剣道に対する熱意を徳島県指導者が学びとる。

四参加校 東城中(広島)、上郡中(兵庫)、小津中(大阪)

協和中(香川)、吉備中(岡山)、若草中(奈良)

一福中(岡山)、土庄(香川)

五参加者

男子

2年

天羽 将文(阿南一)	原田 陽博(文理)
石田 裕貴(八万)	弘田 誠(南部)
佐藤 浩(阿波)	塩田 朋(阿波)
中山 真治(木頭)	川添 義仁(小松島)
松村 芳紀(入田)	板東 俊也(市場)
福住 成樹(那賀川)	元木 啓之(文理)
1年	
福井 豊一(木頭)	瀬野 宏(市場)

近藤 正章(高浦) 高浜 慎也(高浦)  
 中都 史雄(文理) 馬淵 博之(那賀川)

女子

2年

大城 夏子(木頭)	前浦志津代(木頭)
森 ひろみ(小松島)	酒巻 裕美(阿波)
武沢 輝美(阿波)	廣 美香(阿波)
楠 幸代(市場)	佐野 由佳(北井上)
吉田 亮子(北井上)	笠松 寛子(入田)
杉本日富美(入田)	大谷 麻実(南部)
小出 美記(那賀川)	中村 円香(那賀川)
原 幸恵(穴吹)	

1年

前浦 幸代(木頭)	大城 照美(木頭)
横田 和美(脇町)	

六 試合結果の概要

◎ 団体

男子 徳島選抜 A(天羽・中山・坂東・佐藤・塩田・福住)

4勝4敗 (0・500)

B(原田・石田・川添・弘田・松村・元木)

6勝1敗 (0・857)

C(福井・瀬野・近藤・中都・馬淵・高浜)

5勝3敗 (0・625)

女子 徳島選抜 A(大城・前浦・酒巻・森・笠松・楠)

3勝3敗1分 (0・500)

B(佐野・小出・武沢・横川・中村・原)

1勝6敗1分 (0・143)

C(大谷・吉田・杉本・前浦・大城・横田)

3勝2敗2分 (0・600)

◎個人、(強豪チーム)選手を相手に勝率6割以上の選手)

男子 2年 干(文) 4勝 2分 (1・0・0・0)

原三(文理) 6勝1敗 (0・8・5・7)

松村(入田) 4勝1敗1分 (0・8・0・0)

塩田(阿波) 4勝2敗1分 (0・6・6・7)

中山(木頭) 3勝2敗2分 (0・6・0・0)

福井(木頭) 5勝1敗 (0・8・3・3)

瀬野(市場) 3勝2敗1分 (0・6・0・0)

高浜(高浦) 3勝2敗1分 (0・6・0・0)

小出(那賀川) 5勝 1分 (1・0・0・0)

森(小松島) 3勝1敗2分 (0・7・5・0)

大城(木頭) 3勝1敗2分 (0・7・5・0)

笠松(入田) 3勝1敗1分 (0・7・5・0)

前浦(木頭) 4勝2敗 (0・6・6・7)

佐野(北井上) 2勝1敗3分 (0・6・6・7)

楠(市場) 3勝2敗1分 (0・6・0・0)

大谷(南部) 3勝2敗1分 (0・6・0・0)

吉田(北井上) 3勝2敗1分 (0・6・0・0)

## 九州遠征報告

一日時 平成2年3月25日(日)〜28日(水)

二場所 佐賀県・熊本県

三目的 (1) 48国体を控え、全国大会ベスト8どまりの徳島県中学校  
剣道のレベルアップ。

4 参加校 (2) 全国一流の指導者から、剣道に対する熱意を徳島県指導者  
が学びとる。

弘前三中(青森)、大門中(富山)、上郡中(兵庫)

東城中(広島)、宇ノ氣中(石川)、大方中(高知)

北茂安中(佐賀)、高千穂(宮崎)、八代第三中(熊本)

他全国レベルの学校

五 参加者

\* 引率者

◎ 総務 石井 博 (附属中学校教諭)

◎ 監督 本村 賢二 (上板中学校教諭)

\* 選手

男子 2年

天羽 将文(阿南一) 原田 陽博(文理)

石田 裕貴(八万) 元木 啓之(文理)

佐藤 浩(阿波) 塩田 朋(阿波)

中山 真治(木頭) 川添 義仁(小松島)

松村 芳紀(入田) 坂東 俊也(市場)

福井 豊一(木頭) 瀬野 宏(市場)

女子

大城 夏子(木頭) 前浦志津代(木頭)

森 ひろみ(小松島) 酒卷 裕美(阿波)

楠 幸代(市場) 笠松 寛子(入田)

### 七 指導者・参加者の感想

- ◎ 強豪チームは基本がしっかりしている。
- ◎ 礼儀正しい。
- ◎ 技の種類が豊富。
- ◎ スピード・気迫に優れている。
- ◎ 連続で打っている。(一つ一つの打ちが強い)
- ◎ 行動がすばやい。
- ◎ 常に攻めている。
- ◎ 試合運びがうまい。
- ◎ 足さばきがスムーズ。

六 試合結果の概要

◎ 団体

男子 徳島選抜 A (佐藤・塩田・坂東・瀬野・中山・福井)

11勝14敗1分 (0・4・4・0)

B (天羽・原田・川添・石田・元木・松村)

10勝13敗4分 (0・4・3・5)

女子 徳島選抜 (大城・笠松・楠・酒巻・前浦・森)

18勝3敗 (0・8・5・7)

◎ 個人 (強豪チームの選手を相手に勝率5割以上の選手)

男子 瀬野 (市場) 14勝2敗4分 (0・8・7・5)

川添 (小松島) 12勝4敗7分 (0・7・5・0)

天羽 (阿南一) 9勝6敗8分 (0・6・0・0)

松村 (入田) 7勝5敗10分 (0・5・8・3)

坂東 (市場) 9勝7敗4分 (0・5・6・3)

中山 (木頭) 10勝8敗4分 (0・5・5・6)

福井 (木頭) 10勝8敗4分 (0・5・5・6)

塩田 (阿波) 9勝9敗3分 (0・5・0・0)

原田 (文理) 9勝9敗4分 (0・5・0・0)

大城 (木頭) 14勝 3分 (1・0・0・0)

酒巻 (阿波) 16勝2敗 (0・8・8・9)

前浦 (木頭) 11勝2敗4分 (0・8・4・6)

森 (小松島) 14勝3敗1分 (0・8・2・4)

笠松 (入田) 8勝3敗6分 (0・7・2・7)

楠 (市場) 9勝5敗4分 (0・6・4・3)

はまなす国体視察報告

一 報告者氏名 柏原 浩・石井 博

二 視察期間 平成元年9月17日(日)～22日(金)

三 視察会場 砂川総合体育館(北海道砂川市)

四 説明担当者 稲葉 和夫(北海道剣道連盟事務局長)

大崎 忠雄(北海道剣道連盟強化委員)

守谷 友成 ( )

五 報告事項

(1) 北海道剣道連盟強化組織について

○ 少年の部は、男女とも強化指定校(一校二部)の指導者担当。男子も女子も指定校の教諭それぞれ2名で担当。

○ 成年の部は、一・二部あわせて北海道剣道連盟強化部(五)六名)が担当。

○ 両部門とも予想以上に強化指定校の人数が少なかつた。あまり多すぎても、逆に動きにくいところがある。従って、少数で充実した強化を心がけた。

(2) 強化計画について

○ 少年の部は、中学校一年生から本格的な強化に入る。第一期が中一

～二、第二期が中三～高一、第三期が高二～三と三期に分ける。

第一期は、主体開催地の砂川に道内の選手を集めて強化大会を開催。

上位に入賞した選手や実力のある選手のリストアップ。

第二期は、この中で優秀な成績の選手四十名を指定選手とし、あと

三十名を加えて、合計七十名で強化合宿を実施。時期は春・夏・冬の

三回。日数は三泊四日。場所は宿泊や練習等に都合の良い札幌で行う。

また、二期目から県外遠征(近距離)を実施。この時期の最後は、人

数を絞っていつて指定選手を三十名程度に。

第三期は、合宿の日数も五泊六日に延ばして実施。また、県外遠征

も関東・関西・九州など遠隔地にをかけていった。

○ 成年の部は、四年前から強化開始。全国的に優秀な講師を迎え強化

選手を養成した。

最近では、二選選手は練習の人数でスタート。合宿や県外遠征を繰り返すうちに二選選手数を絞っていった。最終的に一年前に約二倍にする。二選選手決定は、今年の六月頃。

3 北海道道連盟の強化費等に関する自主財源の確保について

4年前から、昇段審査で団体協力を集めた。合格した場合従来の金額に加えて、協力金として、初段五百円、二段七百円、三段千円というように、段位があるほど、金額も増えていく。

もう一つは、各連盟支部より寄付を集める。札幌市で八百万円、他の市町村でも支部ごとに集めていった。

以上の方法で、総額三千万円程度の強化費を集めた。

(4) 優秀選手や指導者の確保について

○ 少年の部

選手は、指定校を決めて集める。男子は東海四高、女子は札幌二高。それぞれの高校に中学校の優秀選手が進むよう一人一人要請。家族を交えて話し合う。しかしながら、遠隔地であるとか、寮の経費などの問題や、大学進学の問題などで、希望の選手の半数程度しか、指定校に集まらなかった。

指定校に最も優れた選手を集めるという構想は、あまりうまくいかなかった。

指導者は、両方とも若手の優秀な技能を持った先生を確保。それぞれの高校に配置し、生徒につきっきりで指導にあたった。

○ 成年の部

よそからの輸入選手をとらずに、北海道の選手を強化していくことで臨んだ。若手で日本のトップレベルの選手が数名いるため北海道内の合同練習を繰り返すことで、かなり実力を伸ばした。

(5) 特に効果をあげた強化方法について

関東・関西・九州のトップレベルの県外遠征が特に効果をあげた。一回の遠征に多額の経費がかかったが、それなりに効果があった。

少年の部では、一つの学校にある程度絞って強化していった。強化費も重点的に使用でき、選手も自覚を持って練習していった。

(6) 他の強豪チームの実情

少年の部の上位進出チームは、共通して、春・夏・冬の長駐女メシを用いて、各学校単位で県外遠征を繰り返している。また、中学校の優秀な選手を集める努力を怠らない。あるいは、伝統のある高校へは、選手の方から集まってきたところもある。

(7) 徳島県チームの試合

実力が十分出しきれなくて、多くの課題を残した。

# 徳島の剣道

## 各パートからの報告

### 一般

徳島県剣道連盟事務局長 坂下 彦之

本年度を振り返ってみますと、県内では、七月二十三日、五体二連盟ブロック予選大会。七月十六日、四国大学総体、七月二十三日、二三教職員大会が、共に本県主管で開催された。ブロック大会では、高田豊監官、三三三(教員)、吉田(昌)(県警)、北条(一般)が出場し善戦するも香島に敗れ、残念ながら国体成年二部初出場できなかった。大学総体は徳島女子が三三三(日本(文理大))が、三位に入賞するも、本県勢は、予想外の不振であった。しかし、教職員大会は健闘し三年ぶり二度目の優勝を成し遂げた。

県剣連主催の大会では、七月三十日、従来実施されていた、三者大会(教員、警察、実業団)に替わり、第一回徳島県剣道選手権大会で、三十名の精鋭が参加し盛大に鳴門武道館において開催され、近藤(県警)が優勝。また恒例の社会人大会では、選手層の厚い阿南支部が、接戦の末、徳大医学部を敗り二連覇を達成。この大会における遠藤(阿南支部)、藤田(徳大、三)両剣連副会長の活躍は立派であった。特に両先生の優勝戦での対戦は見ごえのある好一番でありました。率先垂範健闘されました両先生に心から拍手を送ります。

県外では、春の都道府県対抗、秋の剣道連盟対抗は予選リーグで、五体二連盟三回戦で神奈川に、全国警察大会も三回戦山口県警に、いずれも惜敗し上位進出を果たせなかった。しかし、全国教職員大会個人戦で、福多(小松島高校)が高、大、教委の部、竹内(城東中学校)が、女子の部で共に三位に入賞してくれました。また、栃木で開催された全日本東西対抗大会において、

大沢先生が活躍され徳島の意気地を示してくれました。本年は、教職員の活躍はあったものの全般的に低調な成績で終始いたしました。

平成二年度は、48国体の成功に向け本格的に選手強化を図らなければなりません。それには、関係機関の協力は勿論のこと、それにもまして会員各位の温かいご理解とご協力が不可欠であります。第四十四回北海道国体の成功は、道民のチームワークであったと云われています。

### 女子

徳島市立高校教諭 手塚 十三子

今年の女子部の活躍を見えますと、県下中学あげての強化練習合宿や県外遠征などを積極的に繰り返して行く中で着実に力をつけた木頭中学・阿波中学は常に県下大会で錦を削り合いそのレベルは全国級です。特に木頭中学は全国大会で善戦しています。

また富岡東高校は三十五年間の四国高校剣道史上初の団体三連覇を成し遂げるなど全国レベルを堅持しています。

一般においては今年度は是非実現をと考えておりました県下女子講習会を連盟の先生方に御指導頂き開催しましたところ、沢山の方が早朝から熱心に受講されました。この講習会を機としてさらに剣道を追究、併せて唯一家庭婦人の全国大会である八月の大会の初戦突破を目標に毎月一回の合同稽古会を実施することになりました。

学生時代の剣道と一般になってからの剣道とでは周囲の取り巻く環境等さまざまな条件や制約が生じてまいりますが、一回一回の稽古を真剣に取り組む姿勢によって解決の道がそこにおのずと開けるものと思えます。剣道は一つですが小学校、中学校、高校、一般とそれぞれの段階で女性らしい味のあつた剣道を求めていきたいものです。

48国体はもう目の前に来ています。成功に向けて女子部も大きな役割を担っていただけるものと確信しています。

## 高等学校

城ノ内高校教諭 西谷肇 一

平成元年を振り返ってみると、県内大会では男女とも上位四、五チームの争いであったように思う。昨年総体優勝の女子富岡東は選手層も厚く新人大会から一步抜き出したように思われたが脇町がそれを阻止した。しかし、その苦い経験を生かし五か月後の総体では男子富岡西、女子富岡東が雪辱を果たし全国大会出場の権利を獲得した。

また、四国大会では、女子の活躍が目立ち個人で近藤（富岡東）の優勝を筆頭に三位田上（富岡東）ベスト8に坂東、吉岡（富岡西）が入賞した。団体戦でも、富岡東が単一校で三年連続優勝を成し遂げ、四国で史上初の記録を作った。全国大会でも決勝トーナメントに進み優勝チームのPL学園と対戦し善戦した。本年のチームはまとまっていただけに対戦相手にめぐまれていればベスト4の可能性もあり悔やまれた。男子においては昨年川島が四国で準優勝しただけに本年も各校に期待したが予選リーグですべて敗退、今後は女子の活躍をきっかけに、男子も早く四国・全国のレベルに達したいものだ。各校の監督選手のためまぬ努力に期待します。

## 中学校

附属中学校教諭 石井博

五月の国体強化錬成大会は、三人の団体戦を実施。男子は市場、女子は国府が優勝。六月の選手権大会は、男子阿波、女子木頭と、ここ数年、県下の中学校剣道をリードしてきた両伝統校が優勝を分けあった。

七月の総体では、三年連続して木頭がアベック優勝。男子では、市場、那賀川、海南。女子では阿波が優勝候補にふさわしい立派な試合を展開したが、惜しくも敗れさった。

四国総体では、学校対抗で徳島勢が大活躍。男子木頭、女子阿波が共に準

優勝した。

全国総体では、女子木頭が実力を発揮。予選リーグを三事に勝ち抜き、勝トーナメントまで進出した。

新チームになった十二月の国体強化大会は、男女とも木頭、阿波の両強豪チームが決勝で激突、共に木頭が優勝した。

一月の新人大会は、男子那賀川、女子阿波が去年に引き続き連続優勝した。国体に向けて中学校の強化は着々と進んでいる。八月上旬に県下の有力選手を多数集めて鳴門武道館で強化合宿を三日間実施。県外遠征選考会も同時に行い、男女は十八名ずつを選抜。八月下旬に兵庫県へ遠征。西日本の強豪チームと錬成試合を繰り返して実施した。

一月には、同様に三日間、強化合宿を実施。三月の九州遠征メンバー十八名を決定した。九州へは三度目の遠征になるが、やはり実力的には全国一のレベルで、大変勉強になった。

今まで五回の県外遠征を実施したが、幸いにも全国大会優勝チームやトップレベルの学校と毎回試合をしていただき、全国の頂点がはっきりとみえてきた。弱小県からの遠征にもかかわらず常に好意的に迎えて下さった多数の学校への御恩返しとして、また徳島県の将来のためにも立派な剣道人を育てていきたい。

## 居合

高橋憲司

昭和天皇が崩御され、元号が「平成」と改まって新年度居合道部も新たな年を迎える事となった。居合道部は従来その組織上専門部の一部会でありましたが、堀江会長を始め県剣連役員の先生方の御理解と御指導のもとに「部」として独立し発足しました。

それを機に、例年の通り春と秋には澤田範士・福田範士を講師にお迎えして講習会を開講し、全国大会のほか、近府県で開催された各大会、また全剣連の主催する中央及び地方講習会に参加する一方、居合道部の事業として会

員各自の技量の向上と相互の親交を図る事を目的に、県内の各地において年間五回の強化練習会を企画し実施いたしました。

ただ残念であったのはその主旨に賛同をし多くの会員の方々が練習会に参加して研究を重ねられましたが、全体から見ればやはりやや低調であった感がないとは言えない現状でありました。近年どの地域に於いても居合道を新たに始める人が少なくなっていると聞きますが、こういった時こそ会員が一致協力してお互いがあるの発展に腐心し、一層の努力をしなくてはならないと感じています。

すべて事業を企画するに当たっては、多くの意見を参集して、しかも、より魅力のある有意義な内容でなくてはならず、その反省を含めて、会員各位の積極的な参加を望む次第であります。

## 第二回全国健康福祉祭

### おおいた大会に参加して

監督 清 原 栄

この大会の主催は、厚生省、大分県及び全国健康福祉祭推進競技会です。目的は高齢者の自主と交流と創造であります。スポーツや色々なイベントを通じて世代間や人々とのコミュニケーションを深め明るい長寿社会をめざし生きがいづくりを勧める大会です。平成元年十一月二日徳島県庁において十三種目の選手団の一〇八名の結団式を行い、十三時三台のバスに分乗し高松港へ、船便にて三日朝七時に別府に到着。

全国各地から参加した約六千人の選手団は澄みきった秋空のもと大分六号地の特設会場で常陸宮殿下、厚生大臣をお迎えし、各県代表選手団は色とりどりの制服にて入場、開会式が約十万人の観衆の見守る中で盛大に開催されました。四日は別府市民体育館で全国都道府県から選ばれた四十九チームの監督を先頭に若々しく激刺として入場、開会式後演武に入り日本剣道形、兵法二天流勢法、居合道の演武と剣道による健康づくり指導教室（講話）が行われました。翌五日九時より四コートにて三県ずつの予選リーグが行われ本

県は仙台市と三重県と対戦し仙台とは一対〇で惜敗し三重県には〇対〇で引分で決勝トーナメントに残ることが出来ず剣友会や県民のご期待に添う事が出来ず残念でしたが、大会に出場して剣道精神を通じてお互いの交流を図りさらに友情の輪を広げるなど心に残る良い思い出の大会でありました。第三回は滋賀県びわこ大会で第四回は岩手県で国体のように全国を廻るそうです。来年度もふるってご参加下さい。

#### 出場選手

先鋒 南 充美、次員 株木芳夫、中堅 遠藤一美（以上六十代）、副将 勝浦 守、大将 蝦名久作、交代要員 西野四郎、近藤康次、監督 清原 栄

## 第十一回全日本高齢者武道大会に参加

徳島県剣道連盟 審議員 西 野 四 郎

平成元年六月九日（金）日本武道館において第十一回全日本高齢者武道大会が華々しく開催された。

回を重ねること十一回、年毎に参加者も増え総勢七九〇名、その内剣道は五百名と言う盛況振りであった。

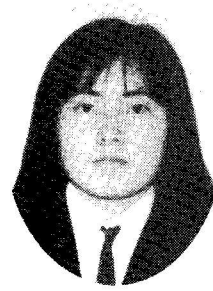
徳島からは三木只雄、清原栄両範士を含む十九名が栄冠を目指し、堂々参加致しましたが本年度の成績は残念ながら期待外れであった。ただ蝦名久作七段はA組（七十～七十四歳）一で、遠藤一美七段はC組（六十～六十四歳）二で、それぞれ五回戦に勝ち進み、六回戦から決勝リーグに駒を進める所でしたが惜しくも予選リーグで敗れた事が大変悔やまれてならない。

しかしながら徳島県勢は第二回から毎年十名から二十名が参加しており、とりわけ清原栄先生と高橋静夫先生には十年連続出場と言う誠に輝かしい記録を樹立され、全国老人福祉助成会大隈信幸会長より晴れの表彰を受けられました。



## 四国大会三連覇を果たして

富岡東高校三年 近藤 加奈子



平成元年 六月十七日、十八日の二日間、愛媛県立武道館において行われた第二十三回四国高等学校剣道大会で、大会史上初の三連覇を果たすことのできた。試合の数も三連覇の三連覇とまれ、男女を通じてこの大会でも三連覇の偉業を成し遂げた。このことを聞いて、先生は喜んでおられた。三連覇の高松南、済美、高知商という壁をとて乗り越えられたことに、先生は喜んでおられた。

四校一組の予選リーグでは、高知商に苦しめられ、二連敗を喫した。後がない副将戦では大接戦の延長の末勝ち、大将戦に勝つ三連覇をものにして三戦全勝で準決勝に駒を進めました。準決勝の組み合わせは愛媛の済美高の予定でありましたが、他校の組み合わせが、香川県高松市で、注選となりました。私は先生が抽選に行った時、練習試合で何変も負けて、高松南だけは抽選を引き当てないようにしてほしいと願っていました。幸運にも相手校は高松北で、三対〇で勝ち決勝に進出できました。決勝戦の相手は、やはり済美に圧勝して勢いに乗っている高松南でありました。二連敗をきたら負けてもともと精一杯やれるだけ頑張ろうと全員で陣を組んで試合を入れ、試合に臨みました。頼みの先鋒が二本負けをし、次鋒が一本取られた時はもうだめだ、完全に相手のペースだと思いました。ところが次鋒は時間終了前に抜き胴を取り流れが急に変わりました。延長戦で次鋒が勝ち、中堅がアツという間に二本勝ち、そして副将が中盤に一本取り、もしかしたの勝てると、その時になって勝利を確信しました。制限時間の笛が鳴り、大逆転の勝利であった。最後の礼を終えたのち、勝利に感激して全員が泣きました。信じられないくらい涙がとめどなく流れました。あの時の感激は一生忘

れることができなと思います。そして、苦しい練習を全員で乗り切ってきたこと、先生の熱心な御指導、そしていつも一緒に応援してくださった御父兄の方々のことを忘れずにこれからの人生に生かして行きたいと思っています。本当にありがとうございます。



# 全国大会に参加して

## 第三十七回日本剣道選手権大会

徳島県警察本部（機動隊） 近藤 亘

平成元年十一月三日、日本武道館において恒例の全日本剣道選手権大会が都道府県の代表六十四名の選手により開催されました。

結果は、決勝で東京の西川七段（警視庁）が神奈川の伊藤六段（県警）を延長一回得意のコテで破り、二年ぶり二回目の優勝を果たし天皇杯を手に入れました。

なお、二回目の優勝は十四年ぶり五人目の快挙だそうです。私は、この大会二年ぶり六度目の出場になります。

何回出場しても、この大会の雰囲気、特に一回戦が始まるまでの緊張感、口ではうまく言い表せませんが、独特のものがあります。

私の相手は、兵庫の二子石六段（県警）、この大会七度目の出場です。試合巧者と聞いていましたが、初めての対戦で手の内がわからない相手でした。

一回戦に自分の全力をぶつけようと、気持ちを整え臨みました。

試合が始まり、お互いににらみ合いの後、相手が「フアー」とした感じがすが、強引に間合に入ってきたのです。私が一瞬「ハッ」としたところメンを打たれました。

二本目に入り、私は積極的に攻めましたが、相手はこちらが打とうとする、スルスルと間を切り、あるいは、スーと間に入って上手にかわします。相手がメンにくると見て中途半端にドウに変わろうとしたところのコテを取られ、結局、自分の剣道ができないまま二本負けを喫しました。

私にとってが一番いやなタイプで「してやられた」といった気持ちでした。この試合で、一本目のメンは、「ハッ」と思ったところを打たれ自分の未熟さを痛感いたしました。

今後は、相手のどんな攻めにも動じない「不動心」を養い、ここで三連三冠に進み、何度でもこの大会に挑戦したいと考えています。おわりに、大会出場に際しまして、御支援、御指導をいただきました三三三会長はじめ会員の皆様方にお礼を申し上げ報告いたします。

## 第二十八回全日本女子剣道選手権大会に参加して

富岡東高校 田上 陽子



平成元年五月四日、大阪市中央体育館において第二十八回全日本女子剣道選手権大会が開催されました。試合は四人でリーグ戦を行い、それからトーナメント戦という形式でした。各都道府県の代表とあって、どの選手も大変粘り強く豪快で「攻め」のきいた剣道を展開していました。

私は「一勝はしたい」と内心思いながら「一本もとれなかったら」と弱気になっていました。しかし、「負けてもともと貴重な機会を悔いの残らないようにしよう」と、自分に言い聞かせて試合に臨んだものの一試合目、私は会場の雰囲気呑まれ、体が動かなくなるほど緊張していて、あつと言うまに負けてしまいました。二試合目は、開き直って試合に臨んだのが良かったのか、念願の一勝をあげることができました。三試合目になってやっと普段の調子に戻ったのですが、延長の末、敗れてしまいました。

試合の反省点はいろいろありますが、一番悔やまれるのは体調をベストコンディションにもっていきなかつたことです。大きな大会であればあるほど、体力的にも精神的にも「心のゆとり」が必要だと、改めて実感しました。

最後になりましたが、今までご指導下さった先生方、応援して下さいました皆様方に心からお礼を申し上げます。

## 第三十六回高等学校 総合体育大会に参加して

富岡東高校 折上 恭子



八月二日(水)から四日(金)までの三日間、香川県丸亀市民体育館において行われた全国高等学校総合体育大会に参加しました。レギュラーは五人全員三年生で、一緒に試合をするのはこの大会が最後でした。今まで苦しい練習にも耐えてきて、県総体、四国総体ともに優勝することができ、本大会も全員で絶対に頑張ろうという意気込みで試合に臨みました。

まず予選リーグでは、沖縄県の興南高校と長野県の岡谷実業で二試合、興南高校は五月の遠征のときに何人か試合をしたことがあってます。二試合でした。選手全員は最初から絶対に気を抜かずに入っていくつもりで、二校ともに勝つことになってきました。そして決勝トーナメントに進むことができ、対戦校は北海道の札幌第一高校でした。北海道といえは本年国民体育大会が行われるところで、選手もその大会に向けて強化をしていました。選手全員なにか不安になって、練習したが、せっかく予選リーグを勝ち上ってきたのにここで負けてはいけません。選手全員身体の中から闘志が燃え上がってきました。そして一生懸命試合をした結果、勝つことができました。あの時は本当にうれしかった。それと次の対戦校は、大阪府のPL学園とでした。去年の優勝校でもあって、たいへん強い高校であります。今までにPL学園との試合経験はありましたが、勝ち目のないほどのチームでした。まえにもPL学園と対戦し悔しい思いをしたので、「こんどは勝ちたい」という決意で選手全員一生懸命試合をしました。結果は四一〇で負けてしまいました。一人一人これまでの試合以上に自分の力を出し切ったので悔しさは残っていますが、よく頑張ったと思

ます。そして、ベスト八というすばらしい成績を残すことができましたことに感激しております。

## 第十九回全国中学校 選抜剣道大会に出場して

木頭中学校二年 中山 真治

僕は全国大会出場を目標として、先輩達と毎日一生懸命練習してきました。そして、ようやくその目標を達成し、先輩のかたがたとできる最後の試合を悔いの残らないものにしてしようと決心して予選リーグの一回戦に臨みました。しかし、結果としては岐阜県代表の鶴沼中に負けてしまいました。選手全員相手に攻められっぱなしで自分の剣道ができていなかったのが原因だと思います。二回戦の相手は大阪の登美三吉で、全員垂敗したもののやはり惜しくも敗れてしまいました。

この大会で僕達が一番よくやったことは一試合いーだったと思います。気持ちの上で相手に負けて、その試合が終わればなにしたんだと試合をふりかえって一歩、進みました。その一歩が調子の良い時は、やはり相手よりも強くなっていきたくて、もっと強くなりたいと思います。気持ちで相手を上まわるために練習するしか方法はないと思いました。

今年この全国大会参加は、僕にとってすばらしい経験になりました。この経験をもちに自分はまだまだ全国レベルには程遠い自分自身をいましめたいと思います。そして、来年度全国大会に出場したいには、自分の満足いく試合ができるよう毎日の練習を大切にしてがんばっていききたいと思います。

# 全国中学校選抜剣道大会

木頭中学校 大城 夏子

観客の手拍子に包まれての入場行進。  
会場には県大会では味わえないような空気が漂い、多数の人々の熱気が体に伝わってきました。

控室には全国大会に出場するまえ遠征などを通じて多少知っている話題の学校、選手がおり笑いの中にも少しだけ不安に襲われながら試合順序を待っていました。

係の人が出場を伝えにきました。先生は『早くしろ。』というような、いそがせる言葉を口に出しませんでした。その時、先生は、私たちに落ち着きと安心感を与えてくれている。先生は私たちを信じ、私たちに期待してくれていると感じました。そのせいか全国大会という舞台にもかかわらず、のびのびと戦うことができました。

広島までの旅路でも付き添いの方々、選手である私たちによい雰囲気を与えてくれました。その細かい心づかいのおかげで、私たちは全国レベルに一步近づくことができましたのではないかと思います。

私は成績よりも、すばらしい環境の中でけい古し、また、部員は先生を信じ、先輩は先輩たちの気持ちをわかれろとし、みんなが一九となつて苦しさを乗り越えられたことに意義があると思えるようになりました。勝つことに精いっぱいだった私は、この大会によって、みんなへの感謝の気持ちや伝統を守る大切さ、そして素直であることの大事さを教わりました。

## 第二十四回全日本居合道大会

監督教士七段 平尾 勝美

平成元年十月十五日名古屋市露橋スポーツセンターにおいて、標記大会が盛大に開催されました。さわやかな秋空のもと全国各地から居合道の精鋭剣

士が各県の面目と期待を一身に背負い堂々の入場行進を遂げ、対抗優勝試合が華々しく開始されました。筆者も監督として選手と対戦し、一戦一戦祈る様な気持ちで代表選手の健闘を見守っていました。試合は三三三の部においては、青木茂生選手が、北海道の横田清隆選手と対戦し三三三で敗れ、六段の部においては、青山善雄選手が山形県の、小松昭二選手と対戦し、これまた三対〇で敗れるという戦況でした。次いで期待の七段の部において、原田選手が島根の宮本照孝選手を二対一で降し緒戦を突破、次いで静岡の強豪、小田克夫選手と対戦し非常な接戦の末、二対一で惜敗し、本県勢は不振の中に都道府県対抗優勝試合は終わりました。

個人演武には五段の部で、吉岡修一氏、教士七段の部において、前田健志、高橋憲二氏、平尾勝美の三名が出演し、各々日頃の技を披露致しました。

反省点として一口に言って稽古不足と申しましょうか、五、六段の部においては刀の運用に凝りがあり堅さが目立った様に思われます。七段の部においては本当に善戦して頂き惜敗の一語に尽きると思います。

今後部員一同一層の精進を心掛け日常の修練と指導をうけた個癖は素直に改める気風を養い常に前進することを忘れてはならないと思います。また稽古のマンネリ化を反省した漫然と稽古するだけではなく一挙一動に理合あることを考えると共に気配りを十分にして稽古に打ち込み精度の向上をはかることが大切だと思います。

かつて本県の居合道は全日本居合道大会において総合成績が全国十位以内に定着していた時代が何年も続きました。やれば出来ると思っております。執念を燃やして努力すればかつての時代を呼び戻すことも夢ではないと思えます。

# わが郷土の剣豪紹介

## 〈徳島支部〉

### 剣道教士 松尾 誠 一



先生は明治二十七年徳島市北矢三町の名門で武家の養れ高い松尾武八氏の令息として生まれ、徳島県立農業学校を卒業後、一年志願兵を志願し、陸軍歩兵曹長となり退役しました。その後剣道を志し神陰流久保利雄先生に師事日夜その修業に精進しました。

功成り衆望を担い大正十二年より昭和十二年までの間母校徳島農業学校の剣道教師として指導にあたり同校剣道の黄金時代を築き、更にその卒業生を以て徳農剣友会を創設、早くから京都の全国大会に出場し勇名をはせました。母校より市立工業学校に転勤し勤務の傍ら武徳会徳島支部の教授として広く剣道界に尽くされました。

先生は全国大会に毎年出場し有名な高野先生と対戦、四国の高段者対抗戦に上位で入賞、また県下大会では全国制覇を成し遂げた藤川一太郎先生と対戦するなどその実力は高く評価されていました。

先生は故下村先生を一廻り大きくしたような容貌と容姿で、特に面金越しに見える太い眉と大きな眼は鋭く攻め込まれると恐ろしかったことを思い出します。しかし一度面を外すとにこにこ談笑され全く別人の感じ、のみならず優しさの中に人を引き付ける魅力が溢れていました。

また先生の審判はきびきびとした独特の判定姿勢で下す判定はすばらしく公平無私、若者の間にも大変人気がありました。

剣道の外、在郷軍人分会長、警防分団長、自治会長、司法保護委員、町議

会議員等地方自治にも積極的に尽くされました。

戦後復興途上の社会や剣道界に無くてはならぬ先生でしたが、惜しくも円熟期、華やかな生涯を約束されながら昭和二十五年十二月五十六歳の若さで他界されました。

最後に先生が平素心掛けられた「敬天愛人」の精神を弟子達は心底敬慕し話し合い語り伝えて今なお剣豪松尾先生は永遠に私達の胸の中に生きていることを信じて疑わない次第であります。

(徳農剣友会長 勝浦 守記)

## 〈阿波支部〉

### 範士 近江 佐久郎

剣道範士近江佐久郎は、明治三年(一八七〇)二月二十七日、近江安太郎の長男として徳島県阿波郡香美村(現三番地)に生まれた。

香美村尋常高等小学校を明治十一年に卒業し、三村の医師で漢学者の浅井弘に漢学を学ぶ。同十四年二月より三村三冢貫心流師範山根正雄(名西郡石井町関)から阿波郡勝命(転居)に入門し、五年間貫心流剣術を学ぶ。同十九年五月、佐久郎十六歳の時、師山根正雄の勧めに依り中国方面の武者修行に旅立つ。このことは師山根正雄(自三)の経験(安政四年、十七歳の時より文久六年までの七年間中国三三三方面への武者修行に行った)から同じ年齢に達した佐久郎に勧めたこと推察される。

同二十一年三月修仁(現)から帰った佐久郎は、山根正雄より貫心流免許「目録」を授けられる。(写真二)同二十四年八月徳島県巡查を拝命後奈良県へ転出、傍ら剣の修行に専念する。

同三十二年十二月大日本武道会徳島支部が創立されるや同三十四年にはその主席師範となる。以後徳島県剣道界のために大いに尽くす。同三十六年九月には師山根正雄より貫心流最高位「拾位」の許状(写真三)と備州長船長義の短刀(写真四)を授与された。

大正十二年(一九二三)には師範学校、中等学校、高等女学校の教員無試

験検定に合格し、以後徳島中学、徳島師範学校の教諭および徳島刑務所、徳島警察署の剣道師範となり、また一般青年の指導に当たった。その門弟は九段範士を筆頭に数千人におよび有段者の数は枚挙にいとまが無い。

近江佐久郎の指導方針は懇切丁寧満足するまで教え、道場では終始面を取ることなく、何時間でも態度を崩さなかったと言われている。

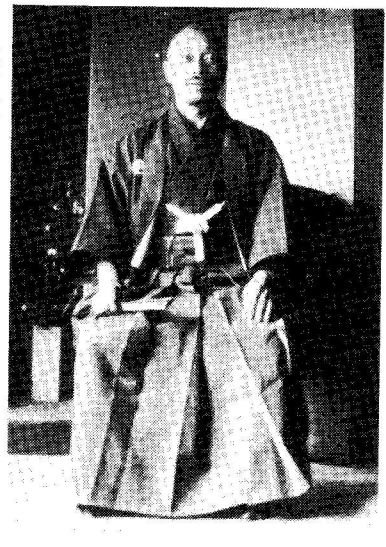
昭和四年（一九二九）五月第一回天覧試合の行われたとき指定選手として出場の栄を賜り、同十年五月六十五歳の時武徳会本部より範士の称号を授与された。

佐久郎の事績を語るに次の事柄がある。十六歳のとき武者修行に出たことは先に述べたがそれは貫心流宗家旧男爵戸家（山口県能毛郡三笠）に行つて直接宗家より教えを受けたのである。

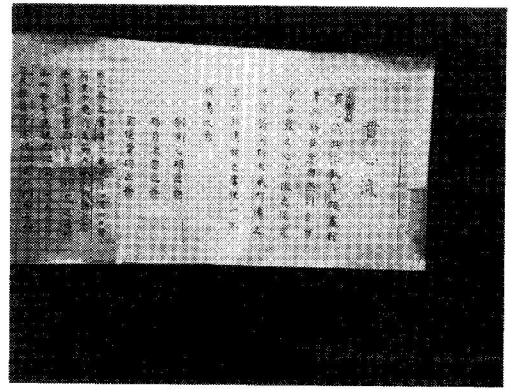
師山根正雄が大正十四年三月に没したのち昭和十七年八月に宗家戸家より剣士二名が来訪し「組太刀」の伝授を請い、これを習得して帰国した。宗家では既に組太刀の継承が曖昧だったのである。後日、謝意を表す意味に於て戸家から流祖家俊佩用の「備前勝光」の脇差並びに「宍戸記一巻」が贈られた。（写真五・六）これらは貫心流正統継承者を立証するものとして今も近江家に伝わっている。

近江佐久郎は、昭和十九年六月二日天寿を全うした。享年七十五歳、法号「崇剣院俊徳慈翁居士」徳島市二軒屋観潮院にその墓がある。佐久郎には二子あり、長男男（昭和五十四年二月九日没、享年八十五歳）、次男清（岐阜県高山市住、昭和六十三年七月十七日没、享年九十二歳）共に剣道範士で貫心流継承者であった。

（坂本裕二）



「写真一」近江佐久郎



「写真二」

山根正雄より近江佐久郎に与へたる状「目録」

貫心流

貫心流兵法数年被盡粉骨矣。勝負の要自然に別れて百計百発之心法に至る。之に依つて、宍戸司箭従り河野大藏伝うる所之家秘竝に伝授之書、一も残さず之を伝う。

剣術心明之巻

勝負決要之巻

金櫃骨碎之巻

右三巻之書者、元亀元年四月四日可箭雲中飛行之節、大藏伝うる所の要法家伝の全書たるを以て代々河野家之秘法と為り（以下略）

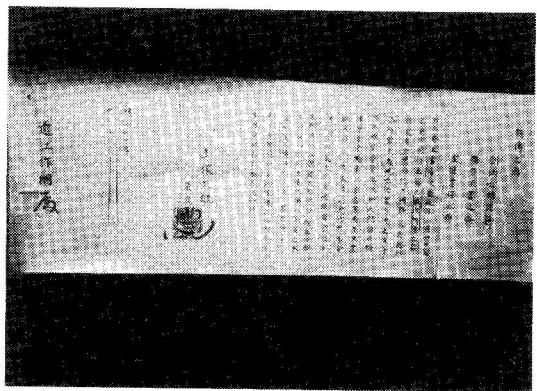
山根正雄

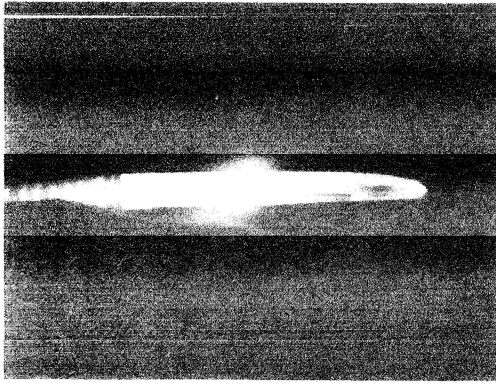
榮盈

明治廿一年

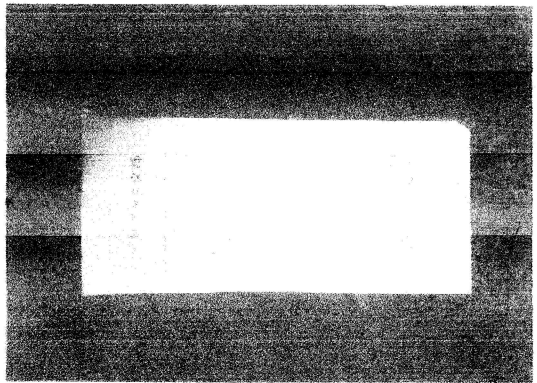
四月四日

近江作朗殿





「写真四」  
山根正雄より授与の短刀  
備前長船長義  
九寸 目釘穴一つ



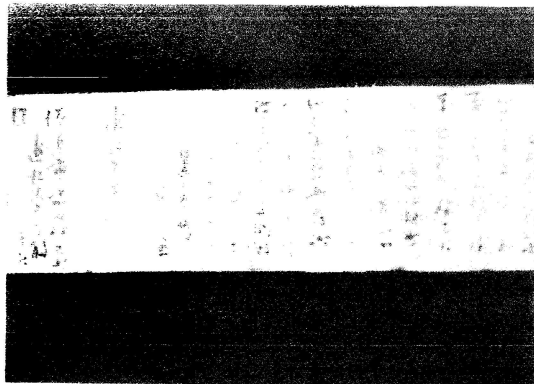
「写真三」  
山根正雄より近江佐久郎に与えた免状「拾位」  
貴下積年練習し、当流に於て其器奥を究む。故に往昔許状を授く。爾來益篤専心、而して予が教授せし門人より熱練の輩を辨出せしむ。其功績大なりと謂うべし。之に因りて遺賜拾位を授く。將來怠慢無く斯

道の隆盛を図り、門人をして國家を保障し君恩の萬一に酬い奉らむことを庶幾の使よ

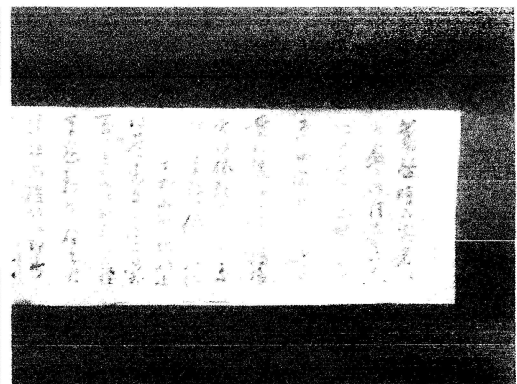
山根正雄  
藤原榮益

明治三十六年  
九月吉日

近江佐久郎殿



「備前勝光作と申伝有」  
外宍戸記一冊薄謝の印し迄に贈呈可旨  
被申付候間御受納被下度此如申進候  
七月廿六日  
男爵宍戸家執事  
敬具  
福間啓助

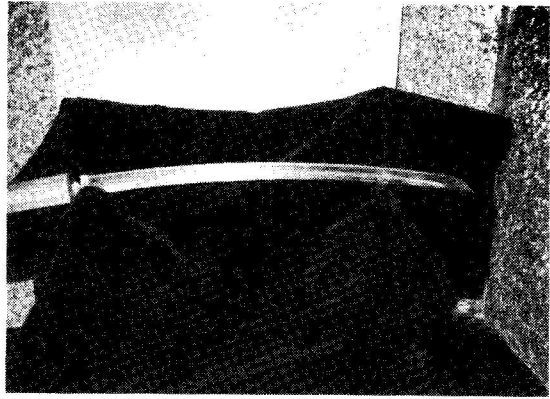


旧男爵宍戸家より近江佐久郎に送られた書翰

近江先生

玉席下

肅啓時下炎暑之候愈々御清適奉賀候陳者兼て本村出身原田侃劍士を通して貫心流組太刀御伝授方御依頼申上候處御快諾被成下候段当家としては本懐此事奉存候仍にて介添として本村山本一郎劍士同道参上可致候間萬事宜敷御取計之程奉懇願候付ては流祖家俊公御幼少時代御佩用之刀一口



「写真六」

貫心流宗家尖戸家より近江佐久郎に  
送られた脇差

長さ 一尺六寸五分

反り 六分

目釘 一つ

銘文 なし

但し、流租家俊公幼少時代佩用

「備前勝光作」と伝えられる。

## 〈丹生谷支部〉

### 新田 密 太先生（那賀郡相生町横石字桑原）

新田家の祖は中世戦国動乱の時代、土佐から侵入してきた武将の一族で、当地に定着したと伝えられる。通称仁井田の郷、桑原開拓の旧家として栄えてきた家柄で、明治二十六年五月六日助蔵長男として出生、「武」の血脈がよみがえって来たと言えよう。全日本剣道連盟教士七段密太氏は併せて数少ない神伝流居合道六段の貴重な存在でもあった。氏の居合道は開祖長谷川主税助英信より伝承され近代に至り、この流儀の正統に列せられている。氏が剣道を志したのは小学生時代、近郷に剣名を轟かせていた剣客西村百太郎師範の門をたいて厳しい修行に入った。当時の剣道修行はその厳しさにおいて現代を超えること想像に絶するものがあり、剣道をスポーツなどと考える

者はもちろん一人もいなかった。一刀必殺の武三（三三三）の修業（三三三）が散ったものといわれた。少年期の修行三昧の後、青生野（三三三）の指導役として重きをなし多くの子弟を指導する傍ら各地の試合に三場優勝を飾り、など、名声県内外に広まり氏に教をこう者数知れぬ有様で、剣道界（三三三）を忙を極めた。また当地に始めて剣道倶楽部を創設した。傘下から多数の傑出した人物を輩出、中でも藤本幾久、河野美和太、西浦新ほか高段者多数を育成した功績は大きい。戦後学校剣道復活に先駆け県中学校剣道第一回優勝など阿波の柳生村創成に果たした業績も大きい。氏は短軀の不利を技で補い、胴技の速さを得意とし常に相手を恐れさせた。酒を愛し豪快で、自己を曲げず正道に生きるその様は古武士の風格があり、悠々と逝く、八十八歳を以て、県剣道中興の陰に氏の存在を再認識せざるを得まい。

（西浦 新記）

## 人物紹介（各支部より）

### 〈板野東支部〉

伊丹 要（七十八歳 剣道錬士五段）

小松島市坂野町の農家に生れ、現在北島町北村団地に居住し、北島少年剣道教室の顧問をお願いしている。まだまだお元気であります。北島少年剣道教室は昭和五十二年四月当時県連会長であられた三木只雄先生や誠武館長、故中谷先生の協力により、誠武館の兄弟道場として創立されました。剣道の理念を大切にして少年の非行防止と健全育成を目指して創立し、当時十七名だった剣士は現在では五十名近くに達し盛況であります。

先生のご功績は剣道のみでなく、昭和六年陸軍衛生隊として現役入隊、爾来十二年、十六年と二度の応召により、中支、南支、野戦病院を転戦し終戦と同時に復員（陸軍衛生曹長）、昭和九年徳島県巡査長、県下各署でのご活躍は目覚ましく、貞光、驚敷、脇町、牟岐、北島各署署長を歴任し県警察本部機動隊長を最後にご勇退（警視正）されました。しかしながら武道の修練は一日たりとも欠かしたことがなく先生が励んで来られた文武道にわたるご努力の跡は免許状や叙勲が、それを物語っている。武道の道では柔道四段（昭和三十八年）、剣道錬士五段（昭和五十年）、書道の範疇は新範免許（昭和五十一年）、軍人や警察官においても次の通り数々の栄光を輝かれます。功七級金鶏勲章（昭和十五年）、勲五等雙光旭日章（昭和六十二年）の栄光に輝いています。

先生の励んで来られた武道についてのご体験をお伺いすると一悔い多き剣道の道で、わずかに慰められることや、楽しい想出として警察署在任中その職責上、必須課目とされる体技たる柔剣道を自らこれを愛好し修練に励み署員を督励して実効を上げ、自ら出場し、それぞれ団体優勝されたこと。また、警察退職後、中谷道場に通って、故中谷先生の人間味、少年指導のあり方を

学び楽しく過ぎて頂いたこと、更に北島少年剣道教室の発展に微力を注ぎ得たことは生涯の喜びである」と謙虚に語られた。

私達は今北島少年剣道教室の設立の感激を想い起す時、指導目標として継承した五つの道場訓、礼節、融和、感謝、忍耐、親切の実践指導に努めて来たところであります。ともすれば勝負に重点をおくおそれなしとしない斯界の風潮に鑑み、勝負に捕われれば道義精神がそなわれるので、警戒心を一層高めなければならぬと思います。なお、おこがましい事ながら少年剣道の現代的意義についてはいまさら言うまでもないところでありますが、有史以来、未だかつて無かった少年を巡る環境悪を想う時、少年の非行防止と健全育成を念願する立場において、これが指導の重要性を痛感し在来の道場内だけの指導で果して良いのであろうかと自問自答する昨今であります。一歩進めてこれの対策として研修会、協議会などの情報交換の場をつくりたいものだと思案するものであります。

伊丹先生のご紹介を兼ね剣道を通じて、習字の育成について私見を申し上げて筆を置きます。

（富永利男）

### 〈阿波支部〉

河野 耀雄（五段）

平成二年、故佐藤正己六段教士の指導で剣道修練の道に入り、更に徳島農業高校に進み故下村富夫八段範士先生の下で益々技を磨き在学中は徳農の中堅選手として大活躍をした。その剣風、気魄は下村仕込そのものであり、徳農剣道の伝統を今も伝えていく。卒業後は果樹栽培の研究と併せて更に剣道の修練に励み五段となり、市場剣道教室の創設、後輩の指導に尽力すると共に剣道を通じて地域の青少年の健全育成のため非常な努力をしている。今日の市場剣道教室の隆盛発展は氏の力に負う所が多い。また彼は剣道連盟阿波支部選出役員として徳島県剣道連盟発展のため活躍している。

更に彼は剣道の修練と共に居合道にも励み故瀧下教士先生の指導を受け先

生亡き後、更に技量錬磨のため同好者と共に努力精進を重ねている。将来の阿波郡剣道は彼を中心として発展していくことであろう。

### 〈美馬西支部〉

松浦 広志 (三十八歳 二段 会社員)

十数年ぶりに再び剣道をはじめて、はや三年が過ぎようとしています。あまり無理をしないようにという教室の先生方の忠告も生かせず。まず、最初に左足のふくらはぎを痛め二週間程でおおると、次は右足のかかとの神経を痛め一カ月のリタイヤ。やはり十数年のブランクは大きく体が動けるようになるのに約二年かかりました。最初の頃は子供を指導する二時間という時間が長く感じ家に帰ると疲れて何もできない状態でした。しかし、最近では体が慣れて剣道を楽しめるようになり、また、子供達を指導する楽しさ、難かしさというものが少しずつ分かってきたように思います。今後、子供達と共に細く長く剣道に親しんでいきたいと思えます。

阪本 光男 (四十二歳 初段 会社員)

私は四十歳代に入り体力の低下を毎日痛切に感じておりました。今一度身体を鍛え直そうと決意して考えた結果激しく格闘する個人技の剣道を選びました。

幸いに半田剣道教室の先生にお願いすると快諾してくれましたのが一年半前でした。先生方の指導は理解できるのですが、いかんせん身体が動きませんので歯がゆい思いの今日この頃であります。しかし、努力は必ず報われるをモットーにけい古に励んでおります。

私の目標

(一) 参段を取得すること。

(二) 鋭角的剣道をすること。

以上頑張ります。

### 〈三好支部〉

東岡 清文先生 (八十二歳)



現在もなお、御健在で徳島県剣道連盟三好支部において顧問として御活躍されている。

明治四十一年二月に三好郡山城谷村光兼にて生誕。大正十四年、黒崎精一先生の門弟となり、はじめて竹刀を握り精進する。

昭和四年佐世保海兵団に入団、練習艦、軍艦等に乘艦、昭和七年には航空整備等に従事、その間勤務の傍、佐世保鎮守府剣道教師の納富範士のもとで指導をうけ、陸、海軍対抗試合、明治神宮大会等に出場、海軍関係者のうち、唯一人先生が準々決勝に進出、佐世保に於て脚光をあびるようになった。また、昭和十五年に長崎県代表として御前試合に出場して、準々決勝まで進出、惜敗した。昭和十四年に練士の称号を受称、昭和十七年には当時の最高段位である五段を授けられる。昭和十六年から高山政吉先生に抜刀術、試斬等を受講された。

昭和二十一年終戦により復員、以来昭和四十三年まで剣道を中断していたが、三好農林高校からの要請で剣道講師として昭和四十九年まで高校生の指導にあたった。昭和五十一年には、山城町に山城剣道修練クラブを結成、青少年の健全育成に力を入れられ現在に至っている。

座右の銘 信念、礼節、信義に徹す。

大和 秀夫 (四十一歳 三段 医師)

昭和四十三年徳島大学医学部入学後剣道を始めました。

福井忠孝教授のもと、故下村富夫師範の指導を受け約六年間剣道に励みました。その間、昭和四十六年九月三段に昇段、勝沼信彦教授にも剣道の教えをうけました。昭和四十九年医学部卒業後、大学院、県立三好病院、国立療

養所香川小児病院、徳島市民病院等転勤が続き剣道に親しむ機会に恵まれませんでしたが、昭和六十三年春から池田町に帰り子供二人が剣正童少年剣道教室に通い始めたので、剣道修業を平成元年度より再開しました。

現在、高橋和宗先生、徳永賢二先生と共に子供たちの成長を楽しみに剣道に励んでいます。十五年間のブランクは大きく心と技体が伴わず心身の鍛練をしなくてはと痛感しています。

### 黒下 智子 (四十二歳 二段 主婦)

小学校四年生の長男が一年生の時、国唯義先生の道場へ入門し、長男を道場へ送りけい古ぶりを見ているうちに、何とも表現のしようがない剣道の魅力にとりつかれ、自分もやってみようと思いきい古を始めました。

昭和六十三年十一月初段を受領、平成元年十二月二段に昇段しました。現在箆藏剣道教室において遠く三休むことなく、三奉訓先生の御指導を受けながら子供達と共に黙々と汗を流し努力しております。

## 〈名西支部〉

### 久保 勇先生 (剣道教士七段 銃剣道教士二、段)

八日生、名西郡石井町浦庄字国実(現三影流第十一代正統、元徳島県剣道連盟審議員、現在相談役、銃剣道連盟顧問、石井中学校、高浦中学校剣道の講師を勤められた。

先生は昭和三年現役兵として近衛第二連隊入隊後、戸山学校に分遣され教育を受けた。戦時中は県下銃剣術指導者として活躍、また旧制麻植中学の剣道教師として勤務、勲七等、在営中は中隊、大隊、連隊でそれぞれ優勝を飾る。祖父は先に本誌に紹介した久保利雄先生である。



徳島県選挙管理委員会連合会勝名支部会長、石井町選挙管理委員会委員長、徳島県市町村選挙管理委員会連合会副会長を歴任、社会事業に貢献されています。

## 〈小松島支部〉

### 梅山 寧史 (四十一歳 三段)

長男が剣道を学び始めた機会に健康と体作りのため、十七年ぶりに竹刀を握りました。稽古するたびに剣の道の奥行きを痛感しております。一生の伴侶として剣道を学んでまいりたいと思えます。

## 〈阿南支部〉

### 土井 司 (六十六歳 五段錬士 書道家)

剣の里阿南に生まれ、小学五年生より剣道を始めました。旧制海部中学(現日南高等学校)に学び、後の本県剣道界の重鎮、浅井真一先生のご指導を三年間受けて受け、当時の海中剣道部の黄金時代を築いたメンバーの一人です。また、浅井先生の愛弟子には、小川、吉岡、野村(故人)を除いては、吾三、行本、張野、岡本、吉田の諸氏は今尚健在であり各地域の剣道教室でシラ剣士の育成に情熱を注いでいます。

海部中学卒業と同時に陸軍幹部候補生として満州大陸に転戦し終戦まで軍生活を送り陸軍少尉で終戦を迎えました。復員後県職員に採用され、日南農林事務所を最後に三十四年間の公務員生活を終えました。勇退後、羽ノ浦春日野に転居し「書道塾 杉峯」を開き、また昭和五十七年より橘少年剣道教室の師範に迎えられる毎週火・金・土を豆剣士の育成に努められ今日に至っています。一方自分自身の錬磨には人一倍熱心で水・土の早朝練習には皆勤であり剣友の範たる存在であります。その上練習の後で香り高い相生茶を接待してくれるのも彼であります。彼は永かった剣道の空白をこう語る「今日

「……た剣道に合理的な眼鏡が開発されていたならば……」眼鏡を必要とする者の共通した悩みであり、彼のことばに胸が痛みます。六年前大病を病みそれを克服したのも剣道であることを考えると、彼の精神力の源は剣の道であるかも知れません。朝鍛夕練の彼に六段昇段の日近きことを剣友として心からお祈りいたします。

(文責 中山)

## 〈丹生谷支部〉

松本 英雄

(剣道七段 前丹生谷支部長  
大和錬心館長)

那賀川流域の剣道鳥瞰図から、本号では、木頭村の松本英雄教士を紹介する。氏は、大正十年の生れだから、七十の齡を重ねられている筈だ。

懇切な履歴メモが、今手許に在りますが、総てにわたる紹介は、紙面がゆるされませんので以下主な事項を抄出したと思います。

氏は求道者。そのまなざしが、それを物語っている。剣道に求めた一筋の道。ピンと通った背筋に実に人なつつこい顔を載せて、とにかく若々しい雰囲気なのであります。

今は昔、空母加賀、瑞鳳に乗組んで死斗をくり返し、武運強く死なずに戻った海軍出身でもあります。

少年期から成年へ……氏の剣道を律した恩師に故大沢善二郎先生がいた。私淑鮑かぬ氏は、昭和二十九年三段。大沢門下の高弟として師の期待に応え、自他共に任ずる木頭剣道の先駆者である。

昭和三十二年大和錬心館の出現を見たが、この道場は爾来幾多の俊秀を世に送り継ぐ。就中、女子剣道に木頭を顕現しているのは剣道王国を求めてやまぬ現錬心館長の氏と決して無縁ではない。

ここまで書き来たって概略に過ぎたことに気がついたので、ここで、特筆すべき一章を加えよう。

氏の錬成過程を見るに、四国一周武者修行(昭和三十四年)九州地方武者

修行(昭和四十五年)の項がある。

木頭猛者の一団を引具した覇気は、思うだに痛快、事ごとく、不道の二誌がきらめくのだ。

大成の今、七段。五年にわたって丹生谷支部を統御した。近、この世界に、「ヒデヤン」と愛称する。この流域この世界の巨星として今も邁三三三、道場に出て若やかな汗を流す氏である。

(文責 青玄 西田武生)

# 剣道随想

## 宮本武藏考 (三)

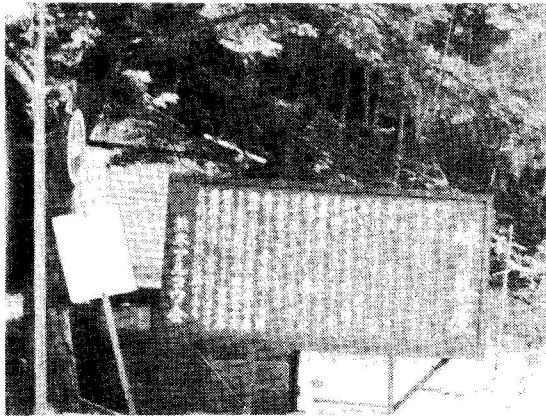
直心館館長小松島支部長 田村直一

「五輪書」執筆の地、霊巖洞は、熊本市の西郊、河内町との境・熊本市松尾町金峰山の西麓にある。

夏目漱石が渡英するまで熊本五高で教鞭をとっていたその頃、「おゝいと声をかけたが返事がない……」の文句で名高い小説「草枕」ゆかりの峠の茶屋が近くに在る。(写真その一参照)

霊巖洞は、その峠の茶屋を左にとり植木に出る。この植木は、西南戦争のとき約三週間の激闘がくりかえされた「田原坂」の古戦場や「谷村計介」の碑などもあって昔をしのぶ戦跡が多いが、現在は本街道からはずれている。

岩戸観音が祀られている霊巖洞へは、熊本駅前の産交バス河内線の「岩戸観音入り口」を下車して約三十分歩いた所に、曹洞宗宝華山霊巖寺の奥之院である、宗教的には、岩戸観音と五百羅漢で知られている。この五百羅漢は、三蔵法師に司まれたものではあるが「笑い・怒り」、「喜び」、など他にみ



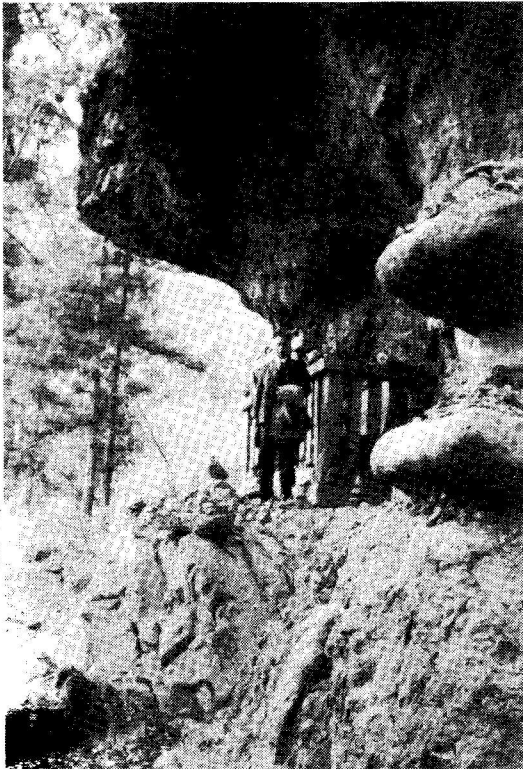
(写真その一) 草枕の峠の茶屋

られない羅漢が山の斜面に、アチラ、コチラに向いてたたずむのは、幻想的であり幽愁の感を深くする。

現在、洞窟前はコンクリートで舗装されそのうえ窟は拝殿風に板張りされていて、窟奥は格子越しにしか拝めないようになっている。天井を仰ぐと、小篆体の文字で「霊巖洞」と刻されている。

熊本城主細川忠利の死後、武藏は日常のことを廃し、千葉城の居宅をあげ、この洞窟に独り来て座禅を組み、「寛永二十年の秋、十月十日午前四時」を期して「五輪書」の筆をとった。その理由は、晩年になって、ようやく己をうけいれてくれる程の器量を持った細川忠利の知遇を得、これまで命をかけた六十余度の果し合いの中から得たものを、行政の中に生かせるのではないかと期待もむなしく主君の死に際会し、その衝撃が、やがて「五輪書」執筆に、向かわせたのではないかといわれている。

洞窟は立つて自由に出這入りでき、ふところも広く、巖々たる大岩の袖で



(写真その二) 巖々たる大岩にかこまれた霊巖洞

写真その二

夜もすくなく燈を照らさせて遅々と、筆を持っている武藏の姿を想像すると、思うだけでも幽玄の気が迫り、肌粟が生じるかにおもった。……

「独行道」にある武藏の「身を浅く思い」「世を深く思う」。

たしかにこのことは、自分をあざむいてはいない、と菊地寛はいう。

この辺りの土地が武藏にとっては生れ故郷の岡山県讃甘地方とよく似ていて、大変好きであったらしい。

山村磊寂たる平和な小天地を愛して、岩殿山に閑がある遊びに来て幼い日の事を思い、また、晴れた日には洞窟の前から有明の海を見ながらその景趣にみはれたものであろうか。……

特産品の「小天蜜柑」とかいのがその頃からあり武藏もよく食べたといえられている。

こうして数年、独想と瞑想がつづき、徐々に自分の死期を悟る。

「五輪書」は、こういう環境と、そのような心底のもとに書かれていったものであろうか。

洞窟の滴々の水も冷たかったにちがいない、素むしろを敷き一脚の机と一穗の寒灯を照して、全文を、地、水、火、風、空の五巻にわけ長文を少し宛したためていったのであろうと、吉川英治はいう。

吉川英治は、哲人武藏。これを知るには五輪書を精密に心読してみることかぎるといわれる。……が私にとっては、註釈をいれていただいてもなお難解で漫然と見過しただけでは、眼を宇宙と人間にひらくところまではなかなか読みとれないのである。

作家菊地寛は、武藏崇拜者を自認し、武藏こそは日本一の剣士であると唱えたのに反し、始終武藏を貶した作家は直木三十五であった。その批評は「自分は若いころから剣を勉強して、十三歳のときに誰を負かし、十六歳のときに誰に勝ち、その後、あらゆる流儀の武芸者と六十遍も勝負してきたが一度も負けたことがないなど、と、いうようなことは、これは人が書くことであって、自分が書くべきことではないだろう。少なくとも自叙伝の冒頭に自慢は書かないものだ。……」

更に菊地寛の推奨する「独行道」の中にある、「齢をとったら財産は欲し

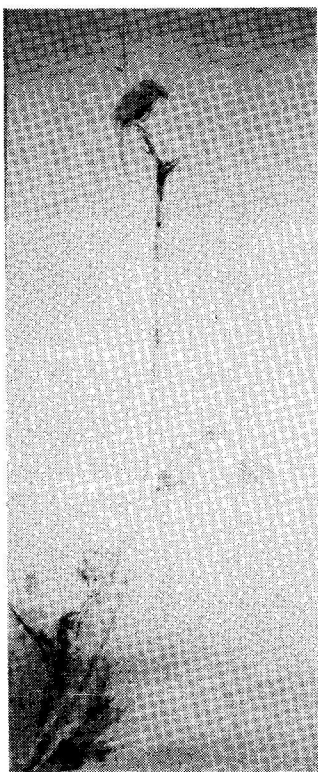
くないとか、依怙の心だとか、道具を……と云々、……でも要するに……とであると……批評と……無口の……

権田萬治は、武藏は天才であるとしながらも日本剣道史の……と云々、とはいえない。が……「とにかく偉才であると褒めている」

その結言によると、天才の剣法には普遍性はない。一代限りの剣法として減んでゆくしかなかった、と……「強かった武藏」。「五輪書」もその延長線上の実践書として敬仰できる一級の書であり、武藏の人格がにじみ出ていると論評している。

また、鈴木健二、司馬遼太郎の両氏も同じように「五輪書」は、筆者不明の「歎異抄」と同じく、斬新、達意の名文で論理性が高く用語に一語一意のきびしさがある。剣だけでなく、武藏は「ペン」でも一家を成す才能をもっていた、と認証している。

◎ 現存する武藏の画では重要文化財になっている「枯木鳴鶴図」が最高の作品とされているが、この画にも「渡辺華山」の逸話が残っているくらいである。武藏の画は「水墨画」で卓抜な筆法は素晴らしいが、誰に師ったか？ 分からないのである。（写真その三）



（写真その三）重要文化財指定の「枯木鳴鶴図」武藏の画

「私に於ては、宮本武蔵が「文学」と「映画」を通じて鮮烈な男のイメージを心に焼きつけてくれただけでなく、青春時代に「男らしい行動」の尺度になった。「神仏を尊んで神仏を頼まず」の一節は、幾多の「受験」にあけくれた自分にとっては、理想に近い人間像であった。お通の恋慕をふり切りながら剣の道につき進む武蔵のように「人格の完成」を目指す。禁欲的な人格主義者ともいえる武蔵像が、青年時代わが魂の高揚する力となったことは生涯忘れることができない。そしてそのことは今も脈々として私の老体の中に神様のような偶像にまでなっているのである。

剣豪・宮本武蔵の全国でも初めてというブロンズ像が熊本市龍田町の武蔵塚公園に建てられた。(写真その四、不動立禅の剣理)



(写真その四) 一二天一流不動立禅の剣理「武蔵像」

## 貫心流・佐藤忠右衛門の伝書

徳島県剣道連盟相談役 平岡 竹雄

一 形法第一之書  
 一 敵に頼り行かず  
 一 一手足進退之方  
 一 捨身一筋仁掛之方

名、関口流と心形刀流が各二名で、貫心流師範が最も多いのである。

さて、主題の佐藤忠右衛門正信の略歴を紹介すると、彼は天保十二年(一八四一)麻植郡牛島村麻植塚に生れた。名は勇之助と称し、世々貫心流の名家であったという。幼時より剣を家父に学び、後諸国を遊歴してますますその技を錬磨し名声大いに現れるに至った。那賀郡で一万石を知行する藩の家老、賀島家の知遇を受けて、富岡町で貫心流の道場を開く。士分・庶民を問わず、郡の内外から、その剣風をしたり門人が甚だ多かったという。

明治維新は、彼が二十七歳の時である。若き天才的剣術家の風貌が偲ばれるのである。激動時代を乗り越えて、ここで生涯を終る。明治三十四年八月六日、歳六十一。富岡町の石塚にある景德寺共同墓地に葬ると、「阿波名家墓所記」に記す。特にこの記録は、旧徳島市福島本町に住み、阿波織織を發明した実業家海部花子が署名し追加している。所縁が深かったものと思われる。

ところで、私がなぜ阿南の地に住んだ佐藤忠右衛門に関心を持つに至ったか。不敏な私と剣道でかすかにつながりがある。私は三十五年前(一九七二)

貫心流は、元龜年間(一五七〇)七二)に安芸国、菊山城主

の宍戸司箭家俊が創始した剣術の流派である。その門人として有名な、伊子金子城主、河野大

内藏道照が出た。これより四国内にこの流派が盛になったとい

う。特に徳島藩内に中期以後この派の名剣士が輩出した。阿波

叢書の武芸師家、剣術家列伝をみると、貫心流六名・直指流四

三季六、三つある寺に下るす、旧制富岡中学校で昭和三年から五年  
間、道を伝へた。

そして、家の古ダンスの底から一巻の剣道の伝書を発見した。

それは、祖父二宮倉次が三十四歳の時、剣術の師佐藤忠右衛門から伝授さ  
れた「貫心流剣術初門伝」であった。師匠の年は二十八歳にあたる。父から  
聞くと、祖父は文武両道、師とは師弟の枠を越えた肝胆相照す仲でもあった  
という。祖父は六尺近い偉丈夫で剣と棒術をよくし、また算法、測図術に長  
じ、村の丈量図を完成している。村役場の助役職を勤め、師匠よりは十年早  
く死去している。

伝書を見ると、お家流の伸び伸びした筆づかいで、剣の理合と術技の要所  
を的確にしかも簡明に教えている。首尾一貫する名文で、文中禅の真理も窺  
われ文武両道の達人の趣きがある。

出身地鴨島町の町史や牛島に一応足を運んだが確認を得ていないし、景德  
寺も住職無任の寺と化し、管理する正福寺で過去帳に当り終日墓碑群を見て  
廻ったが遂に墓所に出会えなかつた。

幸いに阿波郡の坂本裕二氏から原士の血統を継ぐ剣術家の教示を頂いたり、  
文献に当たって、幻の剣道家にある程度の光が射しかつたことは嬉しい。  
前置きが冗長になつたが、貫心流剣術初門伝を悪戦苦斗して読み得たまま  
を提示して先輩、剣士各位の御指導を得たい。

## 貫心流剣術初門傳

それ初心は、まづ規矩形法を本として学ぶべし。故に教へをなすにも是れ  
を先とす。規矩立ちて、其の術熟す。何ぞ規矩を捨て候うて、みだりに其の  
妙に至るの理あらん。

当流は、心貫くとの寓意にして則ち貫心流と名づけはべる。その真理専ら  
高うして、初心の窺ひ知るべきにあらず。知らざる時は、迷ひを生ず。迷ふ  
時は、踏み違ふ事あらん。

そもそも高きに登るは低きよりし、千里の道も一歩より始まる。練磨の地  
位に随ひ教へをなすは師の権道なり。故に初心の入り易くして、後にその理

を極め妙処に至るの階梯を示すのみ。

功を積み、地位の登るに随ひ、奥指の巻を授与すべし。この書の言葉義、  
意の低きを以て忽せにすべからざるなり。

一、形法第一之事

一、敵に移り肝要之事

一、手足進退之事

一、捨身一筋掛之事

当流の執行は、まづ形法を本とし、移りを要とす。勝負の節、間合を斗り、  
気の清濁を知るは移りなり。是れ則ち規矩也。

手・足進退休む事なし。業をなすこと滞りなく、ただ先の先を心得べし。  
刀の長短にかかはらず、己に備る定法を用ひ、心を主とし、業を先とす。心  
一筋を以て貫くなり。如何ほど、業をなすとも、気の満つる時は、明鏡に影  
の移るが如し。

敵捨身にして、強なりといへども、一心不動なる時は、其の発りを知つて  
業をなさは必勝の利あり。樹木の芳を撥くがごとし。敵柔なりといへども悔  
るべからず。唯真実にして我が身を厭うことなかれ。我が身を全うせんとす  
れば、必ず迷ひ出でて我が身をそこなう事あるべし。ただ一心の置処肝要也。

佐藤忠右衛門

正信 函

明治二十三年  
正月十有二日

敵曲変の業をなすとも、何ぞ真に及ぶべきや。唯その一  
を見よかし。常に相打ちを心  
掛けて稽古する時は、自然と  
敵の発りを知る。かくの如き  
なる時は、戦はざる前に神妙  
必勝の場に至るべし。  
唯気の沈む時は、声を発し  
て気を満てしむべし。かかる  
時は自ら業を生ず。声は業を  
生ずるの徳あり。相位にして  
勝負のわかたざる時は、敵の  
心を析くこと専要也。唯自ら

「一、敵の移り肝要之事」の敵の字である。これを、顔か？と迷った。しかし二字共に文に適合しない。初学者の悲哀であった。

ところが先日、古文書の初学の友が、岡本韋庵の書に同じ文字があり書家を困らしたが、敵とわかったと話してくれた。そうだ敵ならびつたりだ。ぼんくららの私に頂門の一针を打った言葉であった。韋庵と忠右衛門は相似た所が多い。韋庵は天保十年穴吹町生れ、忠右衛門は、天保十二年鴨島町生れ、二人はあるいは同じ師匠から書を学んだかも、偶然の一致としても、韋庵の書、剣術家の書を読まず、とにかく、嬉しい一齣であった。

伝書に修行の要諦として四項を示し、規矩を本として、規矩を離れよと説く。その真意は禅の哲理である「指月の指」をもって教えている。禅宗の教えに、「経文は月を指す指であり、月は禅の悟り『見性成仏』である、文字や言説によらず、直観的に宇宙の本源を悟り得ること」と、「伝燈録」にある。見性成仏に到達した時は、経文は無用のものである。しかし、経文によらなければ、悟りの道に到ることはむずかしい。これが規矩の規矩を離れる意味であろう。守・破・離の理合とも相応するものがある。

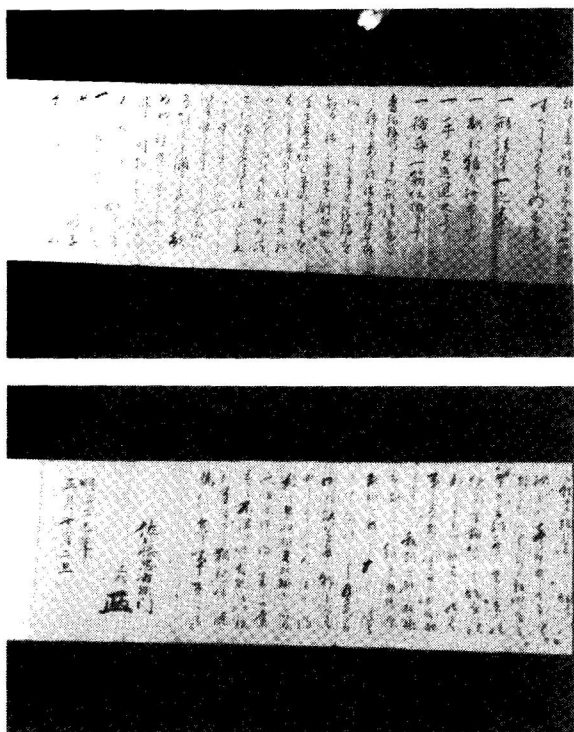
佐藤忠右衛門は劍禅一体の境地を体得した。近代剣道家として面目の躍如たるものを感じるのである。

右の伝書の解説には、古文書に精通される、藤丸昭氏の懇切なご指導をいただいた事を註記し御礼に代えたい。

## 剣道をつづけたい

二級 美馬剣道教室 郡里小学校 田村 光一 恵

私にとって、剣道はとても大切なものです。四年生から剣道をはじめたので、まだ二年かんですが、剣道をはじめて少しがまん強くなりました。はじめて試合にいきまけてしまい、たいへんくやしとおもいました。その時一まけてくやしいと思うのなら、今度そのくやしさを相手に返してやりたさ。と、友達のお母さんがいいました。私は、そのくやしさを返してやりたさ。



貫心流剣術初門伝（後半）

右の伝書は、今から百二十年前の書である。清水が淀みなく流れるような秀麗な筆致の中に武人の書らしい骨格が感じられる。白状すると、私は苦勞して一応伝書に挑戦して読んでみたが、唯一文字に引かかって投げ出している。

明治二〇年  
正月十有二日

佐藤忠右衛門

正信 花押

れません。

「いつもまてておいて、何変も何度もやめようと思いました。でも、母は「自分でやることを、おしたのなら、最後までつづけなさい」とそのたびに私をばばまててくれました。それを何度もつづけているうちに、私はだんだん力をつけていったのです。そして、はじめて私は、三位決定戦までいきました。その時もまけてしまい、私は自分の力のなさにあきれてしまいました。私が剣道をずっとつづけようと思ったのはそれからです。あの時、もっと練習していれば、三位には入れたのに、という、こがかいの気持ちががずっときえませんでした。今では大会があるたびに、今度こそは……と思うほどです。週二回の剣道ですが、これによって友達もたくさんできました。なによりもがまん強さが身につきました。

これからもくじけずに、ずっとずっと剣道をつづけたくさんのことを身につけていきたいです。

## 剣道をしてよかったこと

一級 今津小学校五年 坪 井 さくら

私が剣道を始めたきっかけは、親友が剣道をしていたことを知って、それから入りました。それから五年間、剣道をしていて、三つ、特によかったなと思つたことがあります。一つ、礼儀しくなつた。二つ、病気にかかりにくくなつた。三つ、友達がたくさんできた。このことが、剣道をしていて、本当によかつたと思う事がらです。入つた時、なきなき習つた剣道も、今では、なにもかも、自分にとってためになることばかりです。これからも、剣道を続けていきたいです。



三、三、三、三、三、三、三、三、三、三

一、五、五、五

入田 A 2 1 八方 A

(本数勝ち)

入田 A 2 1 高浦 A

▽決勝

市場 A 2 1 入田 A

瀬野 1 コメ 渡 辺 ○

○松村 メメ

○板東 メメ

【女子】

▽1回戦 藍住 B 2 1 国府 B、池

田 B 2 1 瀬戸 B、山川 B 2 1 0

藍住東 C、上板 B 3 1 0 瀬戸 C、南

部 B 2 1 0 勝浦 B、藍住東 B 3 1 0

国府 C、南部 C 2 1 0 上板 C

▽2 回戦 勝浦 A 2 1 藍住 B、藍住東

A 3 1 0 三好 A、小松島 B 1 (代表

戦勝ち) 1 阿南 B、附属 A 1 (代表

戦勝ち) 1 池田 B、南部 A 2 1 0

山川 B、日和佐 A 1 (本数勝ち) 1

北島 A、市場 A 2 1 0 石井 B、入田

A 3 1 0 上板 B、阿波 A 3 1 0 南部

B、藍住 A 2 1 瀬戸 A、上板 A 3

1 0 池田 A、山川 A 2 1 0 藍住東

B、国府 A 2 1 阿南 A、入田 B 2

1 0 北島 B、穴吹 A 2 1 1 石井 A、

小松島 A 3 0 上板 C

藍住東 A 2 1 勝浦 A、附属 A 2

0 小松島 B、南部 A 2 1 日和佐 A、

入田 A 1 (本数勝ち) 1 市場 A、阿

波 A 3 1 0 藍住 A、山川 A 1 (本数

勝ち) 1 藍住東 B、国府 A 2 1 0 入

田 B、穴吹 A 2 1 小松島 A

▽準々 決勝 藍住東 A 3 1 0 附属 A、入田

A 2 1 0 南部 A、山川 A 2 1 1 阿波

A、国府 A 3 1 0 穴吹 A

▽準決勝

入田 A 1 0 藍住東 A

国府 A 2 1 1 山川 A

▽決勝

国府 A 0 1 0 入田 A

橋本 引き分け 杉本

福原 引き分け 近藤

弘田 引き分け 笠松

(代表戦)

弘田 メ 笠松

◆四国矯正管区施設対抗武道大会

(5月9日徳刑)

▽リーグ戦 高知 3 1 1 高松、松山

2 (代表戦勝ち) 2 徳島、徳島 4 1

1 高松、松山 1 (代表戦勝ち) 1 高

知、松山 3 1 0 高松、高知 1 1 0 徳

島

▽順位 ①松山刑務所 3勝 ②高知

刑務所 2勝 1敗 ③徳島刑務所 1勝

2敗 ④高松刑務所 3敗

◆第20回ライオンズクラブ武道大会

(5月14日中央武)

▽1回戦 那賀川 4 1 0 上板、市場

5 1 0 文理、藍住 3 1 0 小松島、阿

南 3 1 入田、木頭 4 0 南部、八

万 3 1 2 鷺敷、鳴門 2 1 阿南 1、

阿波 4 1 0 北島

▽2回戦 市場 2

1 1 那賀川、阿南 2 1 1 藍住、木頭

3 1 2 八万、阿波 3 1 2 鳴門 1

▽準決勝

市場 3 1 2 阿南

木頭 2 1 0 阿波

▽決勝

木頭 3 1 0 市場

【中学女子】

▽1回戦 木頭 2 1 1 入田、鴨島 1

2 (本数勝ち) 2 市場、勝浦 1 (本

数勝ち) 1 山川、阿波 5 1 0 南部

▽準決勝

木頭 2 1 2 鴨島 1

(代表戦勝ち)

阿波 3 1 0 勝浦

▽決勝

阿波 2 1 0 木頭

【高校男子】

▽1回戦 富岡東 5 0 七三三東、

那賀 2 (代表戦勝ち) 2 城北、城

内 2 1 東工業、小松島 3 1 新野、

川島 4 1 0 城南、阿南 1 3 1 1 阿波、

脇町 4 1 1 徳島市立

▽2回戦 富

岡東 3 1 2 那賀、小松島 3 1 1 城ノ

内、川島 2 1 阿南 1、富岡西 3 1

2 脇町

▽準決勝

富岡東 3 1 1 小松島

富岡西 川島

▽決勝

富岡東 1 1 富岡西

(代表戦勝ち)

▽1回戦 脇町 3 1 0 城东、小松島

2 1 0 徳島市立、富岡西 2 1 0 城ノ

内、富岡東 5 1 0 城南

▽準決勝

脇町 3 1 1 小松島

富岡東 3 1 1 富岡西

▽決勝

富岡東 5 1 0 脇町

◆第23回徳島県高等学校総合体育大会

第1日目

(六月三日～五日徳農)

【男子団体】

▽1回戦 鳴門工3 2三好農林、  
城北5 0日和佐、脇町3 0徳島  
東工、那賀4 0海南、徳島市立3  
2城南、徳島工4 0板野、小松  
島4 1城ノ内、貞光工3 2池田、  
阿南工5 0名西、城東3 2新野、  
徳島商2 1生光学園、阿波5 0  
鳴門、徳島農3

第2日目

【男子団体】

▽決勝リーグ 富岡東4 1脇町、小  
松島3 1那賀、富岡西5 0阿南  
工、川島5 0徳島商 富岡東、小  
松島、富岡西、川島が決勝リーグへ。  
【女子団体】  
▽準々決勝 富岡東5 0城北、城  
ノ内3 1徳島市立、富岡西5 0  
城東、川島3 1脇町 富岡東、城  
ノ内、富岡西、川島が決勝リーグへ。

第3日目

【男子個人】

▽1回戦 辻4 1日和佐、小松島  
(不戦勝ち) 板野、鳴門2 1海南、  
池田4 1宍喰商、城南4 0美馬  
商  
▽2回戦 富岡東5 0辻、城  
北3 2鴨島商、徳島市立2 (代表  
取持ち) 2小松島、城ノ内4 1鳴  
門、富岡西5 0池田、城東3 1  
阿波、川島4 1徳島農、脇町4

【女子個人】

▽決勝リーグ 富岡東2 1富岡西、  
川島5 0城ノ内、富岡東5 0城  
ノ内、富岡西3 2川島、富岡西4

【男子個人】

▽順位 ①富岡西3勝 ②富岡東2  
勝1敗 ③川島0.5勝2敗 ④小松島  
0.5勝2敗 ③、4位は代表戦による。  
【男子個人】  
▽決勝リーグ ①前田 ②長井 ③  
藤田 ④花川

【女子個人】

▽準決勝 富岡東2 1富岡西、  
川島5 0城ノ内、富岡東5 0城  
ノ内、富岡西3 2川島、富岡西4

【女子団体】

▽1回戦 富岡東A3 0脇町B、  
城南1 (代表勝ち) 1市立B、富岡  
西A3 0徳農、川島A3 0徳商  
B  
▽2回戦 富岡東A3 0名西  
A、川島B2 1小松島、富岡西B  
3 0徳商A、城ノ内A3 0城南、  
脇町A3 0城ノ内B、富岡西A3  
0鴨島商業、市立A3 0名西B、  
川島A2 1富岡東B  
▽3回戦  
富岡東A2 0川島B、城ノ内A1  
0富岡西B、富岡西A3 0脇町  
A、川島A1 (本数勝ち) 市立A  
▽準決勝  
富岡東A 2 1城ノ内A

◆第10回徳島県女子剣道大会

(6月25日中央武道館)

【高校団体戦】

▽1回戦 富岡東A3 0脇町B、  
城南1 (代表勝ち) 1市立B、富岡  
西A3 0徳農、川島A3 0徳商  
B  
▽2回戦 富岡東A3 0名西  
A、川島B2 1小松島、富岡西B  
3 0徳商A、城ノ内A3 0城南、  
脇町A3 0城ノ内B、富岡西A3  
0鴨島商業、市立A3 0名西B、  
川島A2 1富岡東B  
▽3回戦  
富岡東A2 0川島B、城ノ内A1  
0富岡西B、富岡西A3 0脇町  
A、川島A1 (本数勝ち) 市立A  
▽準決勝  
富岡東A 2 1城ノ内A

【一般団体戦】

▽1回戦 四国女子大A1 (本数勝  
ち) 1板野西支部、四国女子大C3  
0小松島少剣B、四国女子大B3  
0麻植支部  
▽2回戦 川島剣友  
会2 0四国女子大A、鳴門支部2  
1四国女子大C、小松島少剣A3  
0右武館、小松島支部1 (代表勝  
ち) 1四国女子大B  
▽準決勝  
川島剣友会 1 0 鳴門支部  
小松島支部 2 1 小松島少剣A  
▽3位決定戦  
鳴門支部 1 0 小松島支部

川島 A 1 0 富岡西 A

▽3位決定戦  
富岡西 A 1 1 城ノ内 A  
(代表勝ち)

▽決勝

富岡東 A 2 1 川島 A  
【同個人】

▽段外の部

①松橋麻美(徳商) ②  
海部(富西) ③谷(富東)

▽初段の部

①小藪香(富東) ②吉  
岡(富西) ③吉村(脇町)

▽二段の部

①近藤加奈子(富東)  
②折上(富東) ③鈴木(富東)

県民大会 1 0 小松島支部

【河個人】

▽初段以下の部 ①巻田香織(四国女子大) ②田村(四国女子大) ③服部(麻植支部)

▽二段の部 ①田村美津子(四国女子大) ②井澤(四国女子大) ③山下(四国女子大)

▽三段以上の部 ①竹内佳代子(鳴門支部) ②長瀬(川島高剣友会) ③米倉(笠井整形)

5 1 0 徳島

▽順位 ①香川3勝 ②徳島2勝1敗 ③愛媛1勝2敗 ④高知3敗

【成年2部】

▽リーグ戦 香川2 1 愛媛、徳島2 1 高知、香川2 1 高知、愛媛2 1 徳島、愛媛2 1 高知、徳島2 1 香川

▽順位 ①香川2勝1敗 ②徳島2勝1敗、愛媛2勝1敗 ④高知3敗 ③1位、2位は、得本数による。

▽決勝

木頭 5 1 0 市場

○大城 コロ 近藤

○中山 メ 瀬野

○佐々木 ドメ 坂東

○喜多 ココロ 西村

○小林 ドメド 榎原

【男子個人1年】

▽3位決定戦 佐々木 メメ 表原

(鳴門一) (阿南)

▽決勝 藤メ 馬 潤

(高浦) (那賀川)

【同2年】

▽3位決定戦 福井 メ 松村

(木頭) (入田)

▽決勝 天羽 反メ 反原 田

(阿南一) (文理)

【同3年】

▽3位決定戦 兼松 メ 元木

(阿波) (南部)

▽決勝 木頭 反 山本

(那賀川) (八万)

【女子団体】

▽1回戦 阿南一 4 1 鳴門一

2回戦 木頭4 1 小松島、山川4

1 海南、上板4 1 山城、入田3

1 阿南一、勝浦3 1 北井上、那賀川5 1 0 穴吹、附属3 1 2 石井、阿波4 1 0 北島

▽準々決勝 木頭3 1 1 山川、入田5 1 0 上板、勝浦2 1 那賀川、阿波3 1 0 附属

▽準決勝 木頭 3 1 入田

阿波 3 1 0 勝浦

▽決勝 木頭 3 1 阿波

○大城 ココロ 田島

中田 コメ 栗栖

○前浦 コメ 佐光

○小藪 メド 酒巻

○秋山 ココロ 荒井

▽3位決定戦 (阿波) (附属)

▽決勝 小藪 コド 田村

(木頭) (鴨島一)

◆国民体育大会第10回四国ブロック大会

大会

(7月2日中央武)

【少年女子】

▽リーグ戦 徳島4 1 高知、香川3 1 2 愛媛、徳島3 1 2 香川、高知3 1 2 愛媛、愛媛4 1 1 徳島、香川3 1 2 高知

▽順位 ①香川2勝1敗 ②徳島2勝1敗 ③愛媛1勝2敗 ④高知1勝2敗 ①位、2位は、得本数、3位、4位は、勝者数による。

【少年男子】

▽リーグ戦 香川3 1 2 愛媛、徳島5 1 0 高知、香川4 1 1 高知、徳島3 1 2 愛媛、愛媛4 1 1 高知、香川

▽準決勝 木頭3 1 2 入田、阿南1 4 1 藍住、那賀川3 1 2 八万、市場3 1 0 相生

▽準決勝

木頭 3 2 阿南 一

市場 3 1 2 那賀川

◆第43回徳島県中学校総合体育大会

(7月23日海洋センター)

【男子団体】

▽1回戦 海南2 1 1 鳴門一、高浦5 1 0 穴吹、北島4 1 1 三好、勝浦3 1 2 文理

▽2回戦 木頭2 (代表勝ち) 2 海南、入田5 1 0 池田、阿南一 3 1 0 山川、藍住3 1 1 高浦、那賀川3 1 1 北島、八万3 1 2 坂野、相生4 1 0 脇町、市場5 1 0 勝浦

▽準々決勝 木頭3 1 2 入田、阿南1 4 1 藍住、那賀川3 1 2 八万、市場3 1 0 相生

▽準決勝 木頭 3 2 阿南 一

市場 3 1 2 那賀川

(高浦) (那賀川)

【同2年】

▽3位決定戦 福井 メ 松村

(木頭) (入田)

▽決勝 天羽 反メ 反原 田

(阿南一) (文理)

【同3年】

▽3位決定戦 兼松 メ 元木

(阿波) (南部)

▽決勝 木頭 反 山本

(那賀川) (八万)



(三三) (三三) (三三) (三三)

一進決勝

相生4-1日和佐、高浦4-1新野、

▽3位決定戦

1 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

大野小 1-0 阿南少

海南4-0立江、加茂谷4-1富田、

川島4-0脇

2 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

新野少 2-1 山川少

文理3-1阿南一、▽2回戦 鳴門

▽決勝

3 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽3位決定戦

一2(本数勝ち) 2阿波、南部3-

富岡西 2-1 富岡東

4 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

阿南少 3-1 山川少

2八万、木頭4-0阿南二、那賀川

▽【高校男子の部】

5 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽決勝

1-0坂野、阿南3-1相生、高浦

▽1回戦 脇町3-0徳島工、日和

6 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

大野小 5-0 新野少

3-0藍住、市場4-0海南、文理

佐2(代表戦勝ち) 2生光、城南2

7 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

【中学女子の部】

3-1加茂谷、▽3回戦 鳴門-1

(本数勝ち) 2鳴門工、徳島東工2

8 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽1回戦 藍住3-0富田、阿南3-

1勝浦、北井上2-1那賀川、市

松島2(本数勝ち) 2脇町、富岡西

9 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

場2(代表戦勝ち) 2南部、木頭3-

文理2(代表戦勝ち) 2市場

2-0城東、徳島市立2-0新野、

10 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

1入田、鴨島-3-2新野、鳴門-1

▽準決勝

阿南工A 4-0日和佐、川島3-2

11 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

2(本数勝ち) 2日和佐、阿波3-

那賀川 2-2 鳴門-1

城南、那賀3-1城北、阿南工B 4

12 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

1小松島、▽2回戦 阿南4-1藍

文理 3-2 高浦

▽3回戦 富岡西3-1小松島、

13 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

住、北井上3-1市場、木頭3-0

▽3位決定戦

阿南工A 3-0徳島市立、那賀2-

14 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

鴨島一、阿波4-1鳴門-1

高浦 2-0 鳴門-1

1川島、富岡東5-0阿南工B

15 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽準決勝

那賀川 1-1 文理

▽準決勝

16 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

阿南 3-2 北井上

▽決勝

富岡西 2-2 阿南工A

17 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

阿波 2-1 木頭

那賀川 1-1 文理

(代表戦勝ち)

18 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽3位決定戦

(本数勝ち)

富岡東 2-1 那賀

19 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

木頭 2-2 北井上

▽【高校女子の部】

富岡東 2-1 那賀

20 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽決勝

▽1回戦 鳴門3-1日和佐、▽2

阿南工A 1-0 那賀

21 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

阿波 2-0 阿南

回戦 富岡西5-0徳島市立、脇町

▽決勝

22 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

【中学男子の部】

3-0城ノ内、川島4-0鳴門、富

富岡東 2-2 富岡西

23 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

▽1回戦 鳴門-2-1小松島、南

▽準決勝

(代表戦勝ち)

24 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

部3-1宮浜、阿南2-4-0鴨島一、

富岡西 3-1 脇町

▽【一般の部】

25 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

坂野4-0勝浦、那賀川3-1入田、

富岡東 3-0 川島

▽1回戦 丹生谷支部2-0徳島工

◆第34回県下剣道大会

(10月1日阿南工業)

【小学校の部】

▽1回戦 勝浦少2(本数勝ち) 2日和佐、驚敷(不戦勝) 如水館、宮浜少3-1育英館、阿南少3-1入田、徳島少2(代表戦勝ち) 2羽ノ浦、山川少4-1新心館、錬武館3-1牟岐、竜虎館3-0大野城山、津の峰3-0由岐少、新野少3-2北井上、▽2回戦 大野小5-0勝浦少、北川小2(本数勝ち) 2驚敷、宮浜少(不戦勝) 坂野少、阿南少2-0徳島少、山川少(不戦勝) 那賀川少、錬武館2(本数勝ち) 2佐古、竜虎館2(代表戦勝ち) 2延野少、新野少3-0津の峰、▽3回戦 大野小5-0北川小、阿南少4-0宮浜少、山川少3-1錬武館、新野少2-1竜虎館

▽1回戦 藍住3-0富田、阿南3-1勝浦、北井上2-1那賀川、市場2(代表戦勝ち) 2南部、木頭3-1入田、鴨島-3-2新野、鳴門-1 2(本数勝ち) 2日和佐、阿波3-1小松島、▽2回戦 阿南4-1藍住、北井上3-1市場、木頭3-0鴨島一、阿波4-1鳴門-1

▽3位決定戦 高浦 2-0 鳴門-1

富岡東 2-1 那賀



一 三 三 三

富岡東 4-1 富岡西  
富岡西 2-1 川島  
川島 5-0 徳市立

▽決勝  
富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

富岡東 4-1 富岡西  
○浜田 メメ  
○谷 メメ  
○小藪 メメ  
○中村 メメ  
小藪 メメ

▽中学校1年~3年 ①松村芳紀  
(入田錬成会) ②近藤(高浦) ③板  
東(市場)、川添(小松島)

▽高校1年~3年 ①山室雅幹(藍  
住剣道スポーツ少年団) ②大和(和  
田島) ③川人(上八万宅宮)

▽小学校4年~6年 ①坪井さくら  
(那賀川少年剣道クラブ) ②陶木  
(那賀川) ③松田(高浦)、西崎  
(坂野)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

▽中学校1年~3年 ①森ひろみ  
(小松島少年剣道クラブ) ②楠(市  
場) ③蔭野(阿南)、兼松(山川)

3-1 大麻、松茂1(本数勝ち) 1  
阿南2、羽浦2-1 応神 ▽2回戦  
木頭4-0 上八万、北島3-1 牟  
岐、南部3-1 加茂名、八万3-1  
阿南、驚敷4-0 川内、美馬2-1  
小松島、入田3-0 藍住、文理4-  
0 池田、市場4-0 三加茂、阿南1-  
5-0 宮浜、山川3-1 坂野、那賀  
川2(代表戦勝ち) 2 穴吹、高浦3  
-0 平谷、日和佐2-1 相生、海南  
2(代表戦勝ち) 2 松茂、阿波2  
0 羽ノ浦 ▽3回戦 木頭3-0 北  
島、南部3-1 八万、美馬2-1 驚  
敷、文理3-1 入田、市場1(本数  
勝ち) 1 阿南、那賀川3-1 山川、  
高浦4-1 日和佐、阿波3-1 海南

▽準々決勝 木頭2(本数勝ち)  
2 南部、文理2-1 美馬、那賀川1  
(本数勝ち) 1 市場、高浦1(代表  
戦勝ち) 1 阿波

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

▽準決勝 木頭2-2 文  
理

○小西 コ  
稲岡 コ  
○阿部 コ  
福住 コ  
喜多(○

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一

▽1回戦 城東4-0 国府 ▽2回  
戦 上八万4-1 八万、那賀川1  
(代表戦勝ち) 1 松茂、入田3-1  
脇町、鳴門2-1 南部、北島3-  
2 市場、附属2-1 池田一、小松島  
2-1 阿南一、上板5-0 徳島、穴  
吹5-0 高浦、阿南1(代表戦勝ち)  
1 鴨島一



一決勝

空雲中 3 6 1 3 中村中

木頭中 2 5 2 (3) 牟礼中

一決勝

紫雲中 3 (3) 1 (1) 木頭中

【男子個人】

▽準々決勝

藤井ドー 磯部 (徳島)

▽決勝

久米田メー 安岡 (高知・中村中)

【女子団体】

▽学校対抗予選リーグA ①中村中 (高知) 2勝1分け ②城辺中(愛媛) 2勝1分け ③木頭中(徳島) 1勝2敗 ④白鳥中(香川) 3敗

▽学校対抗予選リーグB ①紫雲中(香川) 3勝 ②阿波中(徳島) 2勝 ③大方中(高知) 1勝2敗 ④新居浜南(愛媛) 3敗

▽決勝トーナメント準決勝

阿波中 1 (3) 1 2 (4) 中村中

紫雲中 3 (6) 1 2 (2) 城辺中

▽決勝

紫雲中 4 (4) 1 0 (0) 阿波中

【女子個人】

▽準々決勝

小薮コ 末光 (徳島)

▽準決勝

高木メー 小薮 (愛媛)

▽決勝

高木メー 藤沢 (香川・紫雲中)

▽決勝

高木メー 藤沢 (香川)

◆第19回全国中学校選抜剣道大会 (8月20日(日)広島市)

▽男子団体予選リーグ

木頭中 0 (1) 1 5 (8) 鶴沼中 (岐阜県)

鶴沼中 1 (4) 1 1 (5) 登美丘中 (大阪府)

木頭中 1 (3) 1 3 (4) 登美丘中 (大阪府)

▽女子団体予選リーグ

木頭中 1 (2) 1 1 (1) 若柳中 (宮城県)

木頭中 2 (2) 1 1 (1) 西浜中 (和歌山県)

○ベスト18トーナメント戦

木頭中 2 (2) 1 2 (2) 高千穂中 (宮城県)

◎木頭中代表戦にて敗れる。

◆第44回国民体育大会剣道競技 (9月18日) 21日北海道砂川市

【少年男子の部】

▽1回戦

北海道 4 1 徳島

○炭屋メー 小野

○野崎コメー 藤田

○小野コドー 福井

○越善メコー 小川

笹木 1 1 前田

【少年女子の部】

▽2回戦

岐阜 3 1 2 徳島

○野平メー 吉岡

○福元 1 1 折上

○内村メー 鈴木

○村山メー 延長 田上

三輪ドー 1 1 近藤

【成年の部】

▽2回戦

徳島 5 1 0

○日木メー 田中

○平野コドー 管波

○西谷ドドー 小笠原

○坂下メドー 及川

○大沢メメー 伊藤

▽3回戦 神奈川 3 1 徳島

○中村、延長 三  
宮崎、延長 三  
○大久保、延長 西谷  
○小林、延長 坂下  
川崎、延長 大沢

# 編集後記

## ◇ 「48国体への強化」

国体（少年の部）強化の流れを見ますと、県外遠征9回、強化合宿13回、延べ64日間強化練習が実施されておりです。休日、祝日等に関係なく強化に参加された生徒、子弟を強化合宿に送り出されたご父兄、指導にあたられた先生方のご苦労はいかばかりのものであったかと思えます。各種競技大会には、参加することに意義がある、といわれておりますが、参加するからには勝たねば意味がないと思えます。

勝つためには何をすべきか、色々と方法はあるかと思えます。机上で考えても書籍を読んで勉強しても身に付くものではありません。血のこころを練習以外にはないので

導にあたられます先生方、ご父兄の方々のご苦労も多々あると思えますが、勝利に向け頑張っていただきだきと思えます。剣道連盟会員各位の「一層のご支援、ご協力をお願いしたいと思えます。」

◇ 平成元年度の県外における戦績を見ると善戦および上位に進出することができず、何か壁に突き当たっている感がします。

その中でも、木頭中女子、予戦リーグ突破。平成元年六月、愛媛県立武道館において開催された四国高校剣道大会において富岡東高等学校女子は、四国高校剣道史上初の団体三連覇を成し遂げることができ将来の展望が開けて来た感がします。

## ◇ 「剣道随想」

田村直一先生の「宮本武蔵考」も（二）で終了しました。色々と教えられることも多く参考になったと思えます。次号からは「佐々木小次郎」

藤忠右衛門の伝書」の書き出しに、初心は、「まづ規矩形法を本として学ぶべし。」と述べられています。昭和62年11月4日付、朝日新聞紙上に歌舞伎の坂東玉三郎の「カタの効用を自負」という記事の中に父（故守田勲弥）から、カタが出来るまでは、他のことに手を出すなと厳しくいわれ、二十五歳まで他のことをしなかつたことが基礎となり、以後い

ろんなことがやれるようになったと言っております。形の重要性を再認識したしだいであります。この伝書の中には他に教えられることが多く書かれておりますので熟読玩味して下さい。

◇ 最後に「徳島の剣道」は、昭和60年度創刊号より、平成元年度第5号の間、石井博先生の編集により発展充実してまいりました。引続いて編集の任に当って頂きたいのであります。公務の関係上編集業務を担当することができなくなりました。

今後とも「徳島の剣道」発展のためご協力をお願い致します。編集にあたり、吉田博文氏のご協力を得ましたことに対しお礼申し上げ、あわせて発行が遅れましたことを会員の皆様方におわび申し上げます。

（松村 克隆）

発行所	徳島県剣道連盟	発刊日	平成二年五月三十日
編集	徳島県剣道連盟広報部		
印刷所	グラウンド印刷		